

FS 55

STIHL



2 - 37 取扱説明書



目次

1	はじめに.....	2
2	使用上の注意および作業方法.....	2
3	組み合わせ可能なカッティング アタッチメント、デフレクター、ハンドルおよびハーネス.....	11
4	バイク ハンドルの取り付け.....	12
5	ループ ハンドルの取り付け.....	14
6	吊り下げ用リングの取り付け.....	15
7	デフレクターの取付け.....	16
8	カッティング アタッチメントの取付け.....	17
9	燃料.....	20
10	給油.....	21
11	ハーネスの取付け.....	22
12	ユニットのバランス.....	22
13	エンジンの始動と停止.....	23
14	機械の運搬.....	26
15	作業中の注意事項.....	28
16	エアフィルター の掃除.....	28
17	キャブレターの調整.....	29
18	スパーク プラグ.....	30
19	エンジンの動作.....	31
20	機械の保管.....	31
21	金属製カッティング ブレードの目立て.....	31
22	カッティング ヘッドの保守.....	32
23	スチール販売店による点検と保守.....	33
24	整備表.....	33
25	磨耗の低減と損傷の回避.....	34
26	主要構成部品.....	35
27	技術仕様.....	35
28	整備と修理.....	36
29	廃棄.....	36

1 はじめに

1.1 シンボルマークについて

機械に表示されているシンボルマークの意味は、本取扱説明書に説明されています。

対象の機種によっては、以下のシンボルマークが機械に表示されている場合があります。



燃料タンク、ガソリンとエンジンオイルの混合燃料



デコンプレッパルの操作



手動燃料ポンプ



手動燃料ポンプの操作



グリースチューブ



インテークエア： 夏季作業



インテークエア： 冬季作業



ハンドルヒーター

1.2 段落の前に付いたシンボルや数字



警告

人に及ぼす事故やケガ、更に重大な物的損傷に対する警告。

注記

本機本体あるいは構成部位の損傷に対する警告。

1.3 技術改良

当社の信条として、常に自社製品の改良を心がけております。この理由から、製品の設計、技術、外観が定期的に改良される場合があります。

このため、変更、修正、改良の種類によっては、本取扱説明書に記載されていない場合があります。

2 使用上の注意および作業方法



本機は切断速度や回転速度が速いため、特別な安全措施を講じて負傷する危険を低減してください。



初めて使用するときは取扱説明書をよく読んで理解し、必要なときに参照できるように安全な場所に保管してください。取扱説明書を遵守しないと、重傷または致命傷さえも負うことがあります。

現地で適用される安全規制(業界団体、社会保険機関、労働安全局等が定める規定)にすべて従ってください。

本機を初めて使用する場合：STIHL サービス店または他の経験豊富なユーザーに機械の操作法を教わるか、専門的な研修に参加してください。

未成年者には絶対に本機を使用させないでください - ただし、監督下で作業を進める 16 歳以上の訓練生は例外です。

子供、動物、見物人を近付けないでください。

機械を使用しないときは、他人に危険が及ばないよう配慮して下に置いてください。機械が無断で使用されないよう対策を講じてください。

第三者の事故/負傷またはその所有物の損壊を防止することは、使用者の責任です。

パワーツールを貸与または譲渡する場合は、取扱説明書を一緒に手渡してください。本機の使用が取扱説明書の記載事項に精通していることを確認してください。

騒音を発する機械の使用が、国、地域、現地の規則によって一日の特定の時間帯に制限されている場合があります。

機械の操作者は、十分に休息をとり、身体的・精神的に健康でなければなりません。

激しい労働に耐えられない体調の方は、かかりつけ医に相談してから機械を使用してください。

ペースメーカー着用者向けの注意点：本機のイグニッションシステムは微弱な電磁界を発生します。その電磁界がペースメーカーに干渉する場合があります。健康上のリスクを低減するために、STIHL 社ではペースメーカー着用者にかかりつけ医やペースメーカー製造業者に相談されることをお勧めしています。

動作を鈍らせるアルコール、薬物、薬剤を服用した状態では、本機を使用しないでください。

装着したカッティングアタッチメントに応じて、パワーツールは芝、雑草、灌木、藪、茂み、径の小さい木々等の切断用におのみ使用してください。

本機を他の目的に使用しないでください - 事故が起きる危険があります！

STIHL 社がこのパワーツールに使用することを明示的に承認したか、技術的に同等のカッティングアタッチメントとアクセサリだけを装着してください。ご不明な点は、サービス店にお問い合わせください。事故や本機の損傷を防ぐために、高品質の部品とアクセサリのみを使用してください。

STIHL 社では、STIHL 純正の交換部品とアクセサリを使用をお勧めしています。そうした純正部品は製品に適合し、お客様の性能要件を満たすように特別に設計されています。

いかなる方法であれ、絶対に本パワーツールを改造しないでください。負傷する危険性が高まるおそれがあります。STIHL 社は、承認されていないアタッチメントを使用した際のケガや物的損害に対して一切法的責任を負いません。

本パワーツールの清掃に高圧洗浄機を使用しないでください。強力な水の噴流が、本機の部品を損傷するおそれがあります。

本機に取り付けたガードは、作業者を回転するカッティングアタッチメントによって飛散する物体（石、ガラス、ワイヤー等）の一部からしか保護することはできません。物体が飛散し、作業者に当たるおそれがあります。

2.1 衣服と装備

適切な防護服と装備を身に付けてください。



丈夫な素材で、身体の動きを一切制限しない衣服を着用してください。ゆったりとした上着ではなく、つなぎ服等の身体にぴったりフィットする衣服を着用してください。



木々、茂み、機械の可動部品に絡まるおそれがある衣服は着用しないでください。スカーフ、ネクタイ、装身具は身に付けしないでください。長髪は結び、肩よりも高い位置でまとめてください。



靴底が滑らない、爪先に鋼板の入った安全靴を履いてください。

草刈ヘッドを使用する場合に限り、靴底が滑らない頑強な作りの靴も着用できます。



警告



目を負傷する危険を低減するために、European Standard(欧州基準) EN 166 に準拠した、確実にフィットする保護メガネを着用してください。保護メガネが適切にフィットしていることを確認してください。

フェイスシールドを着用し、適切にフィットしているか確認してください。フェイスシールドだけでは眼を十分に保護できません。

「個人」用のイヤープロテクター（例えばイヤーマフ）を着用してください。

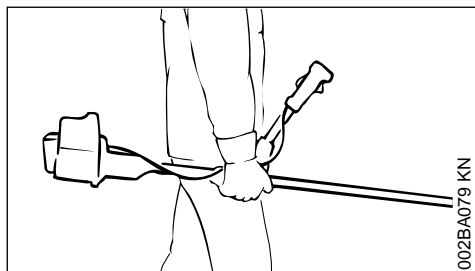
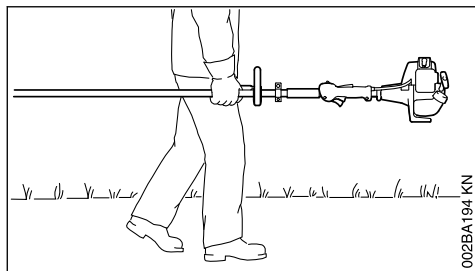
間伐作業や高い茂みで作業を行うときや、落下物で頭部を負傷する危険があるときは、安全ヘルメットを着用してください。



耐性素材（革など）でできた、丈夫な保護手袋を着用してください。

STIHL 社では、さまざまな防護服や防護装備を取り揃えております。

2.2 機械の運搬



必ずエンジンを切ってください。

機械のバランスが保たれるよう、ハーネスで吊り下げるか、シャフトを持って機械を運搬します。

切傷を負う危険を低減するために、短距離を運搬する場合でも、カuttingアタッチメントに運搬用ガードを取り付けてください。「機械の運搬」も参照してください。



機械の高温の部品やギャボックスには触れないでください。火傷をするおそれがあります！

車両輸送：転倒、損傷、燃料漏れを防ぐために機械を適切に固定してください。

2.3 給油



ガソリンは可燃性が極めて高い燃料です。火気を避けてください。燃料をこぼさないでください - 喫煙しないでください。

必ずエンジンを切ってから給油してください。

エンジンが高温のときは給油しないでください - 燃料がこぼれ、火災が生じる危険があります。

タンク内の高圧が徐々に抜け、燃料が噴き出さなくなるよう、燃料キャップは慎重に開けてください。

必ず換気の良い場所で給油してください。燃料がこぼれたときは、直ちに機械を清掃してください - 燃料が衣服にはね飛ばないように注意して

ください。燃料が衣服に付着したときは、速やかに着替えてください。



給油後は、燃料タンクキャップをしっかりと閉めます。

確実に閉めると、燃料タンクキャップがエンジンの振動によって緩むか外れ、大量の燃料が漏れ出す危険が低減されます。

漏れの有無を確認します。燃料が漏れている場合はエンジンを始動しないでください - 重度の火傷または致命的な火傷を負うおそれがあります！

2.4 作業開始前

パワーツールが適切に組み立てられ、正常な状態になっているか点検します。本取扱説明書の関連する章を参照してください。

- 燃料システム、特に燃料タンクキャップ、ホースコネクター、手動燃料ポンプ(手動燃料ポンプ付きの機械のみ)等の目視が可能な部品が漏れていないか点検します。漏れや損傷が生じている場合は、エンジンを始動しないでください。火災が起きる危険があります！サービス店で機械を修理してから再使用してください。
- 組み合わせが承認されているカuttingアタッチメント、デフレクター、ハンドルおよびハーネスのみを使用してください。すべての部品は、適正かつ確実に組み立てられている必要があります。
- スライドコントロール/停止スイッチは、容易に STOP または 0 位置に移動できなければなりません。
- スロットルトリガーロックアウト(装着されている場合)とスロットルトリガーは、スムーズに作動しなければなりません。スロットルトリガーは、自動的にアイドル位置に戻る必要があります。
- スパークプラグターミナルがしっかりと差し込まれているか点検します。緩んでいる場合は火花が発生し、可燃性のガスに引火し、火災が発生するおそれがあります！
- カuttingアタッチメントまたは交換用アタッチメント：適正に取り付けられ、しっかりと固定されており、完璧な状態にあるか確認します。
- 安全装置(カuttingアタッチメント用デフレクター、ライダープレート等)に損傷や摩耗がないか点検します。損傷した部品は、必ず交換してください。損傷したデフレクターや摩耗したライダープレート(文字や矢印が確認不能)を取り付けたまま作業しないでください。
- 絶対に操作部や安全装置を改造しないでください。

- － ハンドルは乾いた清潔な状態 (オイルや汚れが付着していない状態) に保ちます。この点は、機械を安全に操作するために重要です。
- － ハーネスとハンドルを身長や手の長さに合うよう調整します。「ハーネスの取り付け」-「機会のバランスのとり方」の項を参照してください

負傷する危険を低減するために、損傷したパワーツールや適切に組み立てられていないパワーツールは使用しないでください！

ハーネス使用時の緊急事態に備えるために、本機を素早く地面に降ろす練習をします。この練習中は、機械を地面に投げ降ろさないでください。機械が損傷するおそれがあります。

2.5 エンジンの始動

給油場所から 3 m 以上離れた場所でエンジンを始動します。屋外に限ります。

機械を屋外の安定した地面に置きます。バランスと安定した足場を確保してください。機械をしっかりと保持します。エンジン始動時に作動するおそれがあるため、カッティングアタッチメントを地面や他の障害物に接触させないでください。

本機は一人で操作してください。機械から半径 15 m 以内には第三者を立ち入らせないでください。始動時も同様です！飛散物で**負傷する危険があります！**



カッティングアタッチメントに触れないでください。**負傷する危険があります！**



エンジンの落としがけをしないでください。取扱説明書に従って始動してください。スロットルトリガーを放した後、カッティングアタッチメントがしばらく回転し続けます。**慣性回転効果によるものです！**

エンジンのアイドルリングを点検します。(スロットルトリガーを放した) エンジンのアイドルリング中は、カッティングアタッチメントは静止していません。

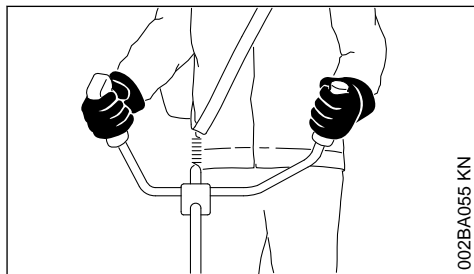
燃えやすい物 (木屑、樹皮、枯れ草、燃料等) を高温の排気ガスや高温のマフラー表面に近付けないでください。**火災が生じるおそれがあります！**

2.6 機械の保持と操作

必ず両手でパワーツールのハンドルをしっかりと保持します。

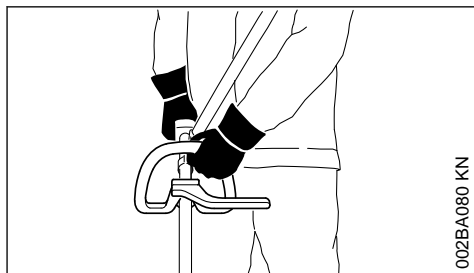
バランスと安定した足場を確保してください。

2.6.1 バイクハンドル付きの機種



右手でコントロールハンドルを握り、左手でハンドルバーのグリップを握ります。

2.6.2 ループハンドル付きの機種



ループハンドルやバリアバー付きループハンドル付きの機種については、左手でループハンドルを握り、右手でコントロールハンドルを握ります - 左利きでも同様です。

2.7 作業時

バランスと安定した足場を確保してください。

危険が差し迫っているか、緊急の場合は、速やかにエンジンを切ります。スライドコントロール/停止スイッチを **STOP** または **0** の位置に動かしてください。



作業エリア周辺の広範な場所には飛散物で事故が生じる危険があるため、機械の半径 15 m 以内には誰も立ち入らせないでください。この距離は、物体 (車両、窓ガラスなど) に対しても維持する必要があります。**物的損害が生じる危険があります！** 15 m 以上離れた場所においても、危険は皆無ではありません。

エンジンが適切なアイドルリング状態になるか点検します。スロットルトリガーを放すと、カッティングツールは停止しなければなりません。

定期的にアイドルリング回転数の設定を点検し、修正してください。アイドルリング回転時にもカッティングアタッチメントが回転する場合は、サー

ビス店に調整または修理を依頼してください。
STIHL 社では、本作業を STIHL サービス店で実施されることをお勧めしています。

滑りやすい場所では、特に注意してください。例えば濡れた面、雪や水で覆われた面、斜面、凸凹のある地面。

障害物に注意します：樹木の切り株や根。**つまり危険があります！**

地面の上に立った状態でのみ作業を行い、はしごや可動式昇降台では絶対に作業しないでください。

イヤープロテクター着用時は、危険を告げる声（叫び声、警笛等）が聞こえにくくなるため、通常よりもさらに注意が必要です。

疲労を感じたときは休憩を取ってください。そうしないと**事故が起こるおそれがあります！**

冷静かつ慎重に作業を行ってください。日中の視界が十分なき以外は作業を行わないでください。慎重に作業を進め、他者に危険が及ばないよう配慮してください。



エンジンが始動するとすぐに、パワーツールから有毒な排気ガスが発生します。排気ガスは無臭で目に見えない場合があります。未燃焼の炭化水素とベンゼンが含まれているおそれがあります。屋内や換気状態の悪い場所では、絶対にエンジンをかけないでください。触媒コンバータが装着されている機種でも同様です。

有毒ガスを吸い込んで重症または致命傷を負う
危険を低減するために、溝、くぼ地、他の狭い場所での作業時は、適切に換気してください。

吐き気、頭痛、視覚障害（視野狭窄等）、聴覚障害、めまい、注意散漫が生じた場合は、直ちに作業を中止してください。濃度が非常に高い排気ガスを吸い込むと、そうした症状が現れる場合があります。**事故が生じるおそれがあります！**

機械は、騒音と排気ガスの発生が最小限になるように操作してください - 不必要にエンジンをふかさず、作業時のみエンジンを加速してください。

火災の危険を低減するために、作業中や機械の付近では**喫煙は避けてください**。燃料システムから可燃性の気化燃料が漏れ出すおそれがあります。

作業中に発生する塵埃、噴霧、噴煙は健康を害することがあります。大量の粉塵または噴煙が発生する場合は、呼吸保護具を着用してください。

パワーツールに設計強度を超える異常な負荷が加わった（強い衝撃が加わるか、落下した）場合、

必ずパワーツールが正常かどうか点検してから作業を続けてください（「作業開始前」も参照）。

特に燃料システムが漏れていないか点検し、安全装置が完全に作動しているか確認してください。安全に操作できなくなったパワーツールは、絶対に使用しないでください。ご不明な場合は、販売店にお問い合わせください。

始動スロットル位置でパワーツールを操作しないでください。この位置ではエンジン回転を制御できません。



飛散物によって**負傷する危険を低減**するために、使用するカッティングアタッチメントに合ったデフレクターが装着されていない場合は、絶対に機械を操作しないでください。



作業エリアを点検してください。岩、金属の物体などは挟まり、15 m を超える距離を飛散するおそれがあります。**負傷する危険があります！** - カッティングアタッチメントや他の器物（駐車中の車両、窓等）を損傷させることもあります。

作業が困難な、繁茂した場所での作業時は特に注意してください。

背の高い植え込み、植え込みの下側、生垣を刈払いるときは、動物を害を及ぼさないよう、カッティングツールを 15 cm 以上の高さで保持します。

機械から離れる場合は、必ずエンジンを切ってください。

カッティングアタッチメントは定期的かつ頻繁に点検し、明らかな変化に気付いたときはすぐに点検してください：

- エンジンを切り、機械を確実に保持し、カッティングアタッチメントが停止するまで待ちます。
- 状態と固定具合を点検し、亀裂の有無を確認します。
- ダイヤモンド研削チエンが鋭利な状態か確認します。
- 損傷しているか、切れ味が鈍くなったカッティングアタッチメントは、すぐに交換してください。小さな細かいひびが見られる場合も同様です。

カッティングアタッチメントの取り付け部から定期的に草木の切れ端を取り除きます。カッティングアタッチメントとデフレクターに蓄積した異物は、取り除いてください。

ケガの危険を低減するために、エンジンを停止させてからカッティングアタッチメントを交換してください。



作業中はギアボックスが高温になります。絶対にギヤボックスに触れないでください。**火傷をする危険があります！**

回転する金属製カッティングアタッチメントが岩や他の硬い物体に当たると、火花が発生し、可燃物が引火する可能性があります。特に乾燥した高温の気候下では、枯れた植物や茂みも引火します。火災の危険がある場合、可燃物、枯れた植物、茂みの付近で金属製カッティングアタッチメントを使用しないでください。火災が生じる危険性の最新情報に関して、必ず管轄森林管理事務所にお問い合わせください。

2.8 草刈ヘッドを使用する場合

取扱説明書に記載されている追加部品を装着してカッティングアタッチメントデフレクターを拡張します。

カッティングラインが承認されている長さに制限されるよう、ブレードが適切に取り付けられたデフレクターだけを使用してください。

手動調整式草刈ヘッドでは、必ずエンジンを切ってからカッティングラインを調整してください。**負傷する危険があります！**

長すぎるカッティングラインを使用すると、エンジン回転数が低下します。常にクラッチが滑ると、例えばアイドリング時のカッティングアタッチメントの回転によって重要部品（クラッチ、プラスチックハウジング部品等）が過熱したり、損傷したりします。**負傷する危険があります！**

2.9 金属製カッティングアタッチメントを使用する場合

STIHL 社では、STIHL 純正の金属製カッティングアタッチメントの使用をお勧めしています。そうした純正品は、機械とお客様の要件に対して最適化されています。

金属製カッティングアタッチメントは超高速で回転し、発生する力がアタッチメントと切断物に加わります。

金属製カッティングアタッチメントは、規定に従って定期的に目立てしてください。

均一に目立てされていない金属製カッティングアタッチメントはアンバランスになり、機械に極端に大きな負荷がかかることがあります。**損傷する危険があります！**

切れ味の悪い刃先や目立てが不適切な刃先はカッティングアタッチメントの負荷を高め、部品の亀裂や破損によって**負傷する危険**を増大させることがあります。

硬い障害物（石、岩、金属片等）に接触した後は、毎回、金属製カッティングアタッチメントに損傷（亀裂や変形等）が生じていないか点検してください。**負傷する危険を低減するために**、バリや他の目に見える堆積物は取り除いてください。それらは、作業中に剥がれて高速で飛散することがあります。

損傷や亀裂が生じたカッティングアタッチメントを引き続き使用したり、溶接、矯正、形状変更による修理を試みたりしないでください（アンバランスな状態が生じます）。

破片が高速で飛散して作業者や見物人に当たるとおそれがあります。**重傷を負う危険があります！**

金属製カッティングアタッチメント使用時に上記の危険を低減するために、直径が大きすぎる金属製カッティングアタッチメントを使用しないでください。重すぎるカッティングアタッチメントも使用しないでください。高品質の素材で製造され、適切な形状（外形、厚み）でなければなりません。

ケガの危険を低減するために、STIHL 製以外の金属製カッティングアタッチメントを使用するときは、STIHL 社が本パワーツールモデル用に承認した最大の金属製カッティングアタッチメントと比較して重量、厚み、直径がそれを上回っている製品や、形状が異なっている製品は使用しないでください！

2.10 振動

チェンソーを長時間使用した場合には、振動の影響により手の血行不良が生じることがあります（「白ろう病」）。

以下をはじめ、多くの事柄が影響するため、一般的な使用時間の設定は不可能です。常に各国の安全規制、基準、条例をお守りください。

以下の対策をとると使用時間を延長できます：

- 手の防護（暖かい手袋）
- 休憩を取りながら作業する

以下の場合には使用時間を短くします：

- 血行不良の特殊体質（症状：指が頻繁に冷たくなる、指が疼く）。
- 低い外気温。
- ハンドルを握む力の強さ（握む力が強いと血行が低下します）。

機械を日常的に長時間使用したり、該当する症状（指のしびれ等）が繰り返し発症する時は、医師による診断をお勧めします。上記のいずれかの症状が現れたら（指が疼くなど）、医師にご相談ください。

2.11 整備と修理

定期的に本機を整備してください。取扱説明書に書かれている整備や修理だけを行ってください。その他すべての作業は STIHL サービス店に依頼してください。

当社では整備や修理を、認定を受けた STIHL サービス店のみに依頼されることをお勧めします。STIHL サービス店には定期的にトレーニングを受ける機会が与えられ、必要な技術情報の提供を受けています。

高品質の交換部品のみを使用して、事故および本機の損傷を回避してください。これに関して不明な点がある場合は、STIHL サービス店へお問い合わせください。

当社では STIHL 純正の交換部品のご使用をお勧めします。これらは、お客様の機種およびご使用になる性能要件に合わせて、特別に設計されています。

ケガの危険を回避するため、本機の保守、修理、または掃除を実行する前に、**エンジンを必ず切ってください**。 - 例外: キャブレターおよびアイドルリング回転数の調整時は例外です。

スパーク プラグ ターミナルまたはスパーク プラグを外した状態でスターターを操作する場合は、スライド コントロール/停止スイッチを **STOP** または **0** の位置にしてください。火花が飛んで**火災を起こす危険があります**。

火災の危険性を回避するため、火気の近くで修理したり、保管したりしないでください。

燃料フィルター キャップにもれがないか定期的に点検してください。

当社で承認されたタイプで、支障なく作動するスパーク プラグだけを使用してください。 (「技術仕様」の項を参照)

イグニッション ケーブルに異常がないこと (良好な絶縁状態、接続の確実性)を確認してください。

マフラーに異常が無いことを確認してください。

火災の危険や聴覚障害を避けるために、破損したマフラーを取付けたまま、あるいはマフラーがないまま作業しないでください。 -

高温のマフラーに触れて、**火傷**しないようにしてください。

2.12 デフレクター上の記号

デフレクターの矢印は、カッティング アタッチメントの適正な回転方向を示しています。

以下の記号の一部がデフレクターの外側に付いており、承認済みのカッティングツールとデフレクターの組み合わせであることを示します。



デフレクターは、カッティングヘッドとの組合せだけに使用してください。金属製カッティングアタッチメントを使用しないでください。



デフレクターを、ブラシュナイフまたはサーキュラーソーブレードと一緒に使用しないでください。

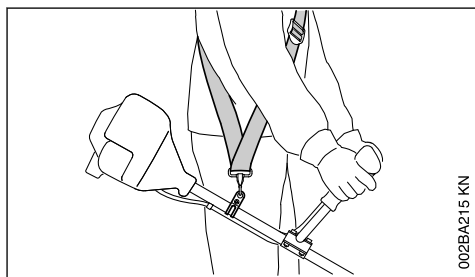


デフレクターをカッティングヘッドと一緒に使用しないでください。



草刈りブレードと組み合わせたデフレクターのみを使用してください。

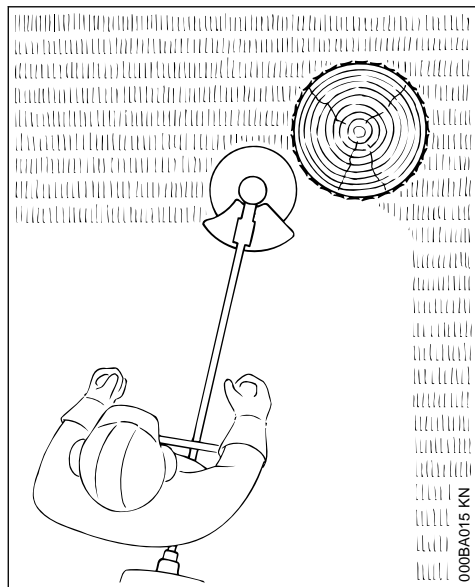
2.13 肩掛けベルト



- ▶ 肩掛けベルトを使用します。
- ▶ エンジンをかけた状態では、本機を肩掛けベルトに吊り下げます。

草刈りブレードには必ず肩掛けベルトを使用してください。

2.14 ナイロンラインを装備したカッティングヘッド



ナイロンラインにより、木やフェンス柵などの周囲の縁取りやトリミングをきれいに仕上げるためのソフトカットが可能です - 樹皮はほとんど傷付きません。

カッティングヘッドには取扱説明書が付属しています。取扱説明書の説明に従い、カッティングヘッドにナイロンラインを取り付けます。



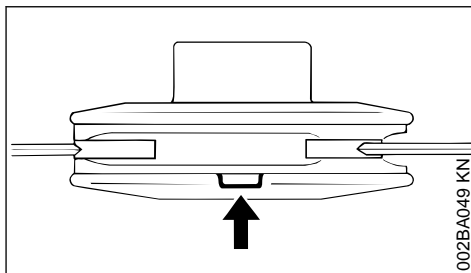
警告

絶対にナイロンラインの代わりに鉄製ワイヤーをしないでください。**重度の傷害の危険があります。**

2.15 ポリマー ブレード付きスチール ポリカット カッティングヘッド

牧草の茂った草木の刈り込み用(生垣、フェンス、木々などの障害物がない場合)

磨耗限度マークに注意してください！



ポリカット カッティングヘッドの磨耗限度マークの1つでも、ベース側に穴(矢印)があいた場合: カッティングヘッドの使用を中止してください。新品と交換してください。そうしないと、カッティングヘッドからの飛散物で**ケガする危険**があります。

ポリカット カッティングヘッドの整備に関する注意事項を遵守してください。

ポリカットには、ポリマー ブレードの代わりにカッティングラインを装備することもできます。

カッティングヘッドには取扱説明書が付属しています。取扱説明書に従い、カッティングヘッドにポリマー ブレードまたはナイロンラインを取り付けます。



警告

ナイロン製カッティングラインの代わりにワイヤーを絶対に使用しないでください - **ケガをする危険があります。**

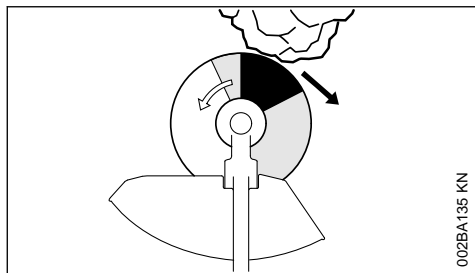
2.16 金属製カッティングアタッチメントの使用時の、キックバック(ブレードスラスト)の危険



警告

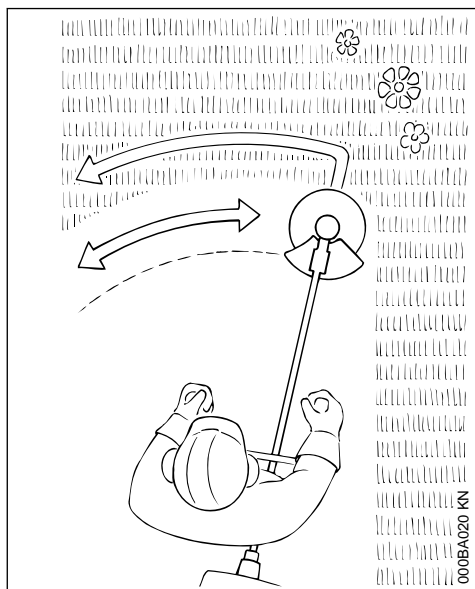


金属製カッティングアタッチメントを使用する場合、回転しているブレードが硬い障害物(木の根や枝、切り株、石など)に当たるとキックバックの危険があります。機械は、アタッチメントの回転方向と反対の、右または後方に跳ね返ります。



回転しているカッティングアタッチメントが黒い色の範囲で硬い障害物に当たった場合、キックバックの危険性が一層高まります。

2.17 草刈ブレード



芝や雑草のみに使用します - 鎌のように円弧状に刈払機を振ります。



警告

不適切に刈払機を使用すると、草刈ブレードを損傷することがあります - 破損部分でケガをする危険があります。

草刈ブレードの切れ味が明瞭に低下した場合は、規定通りに目立てしてください。

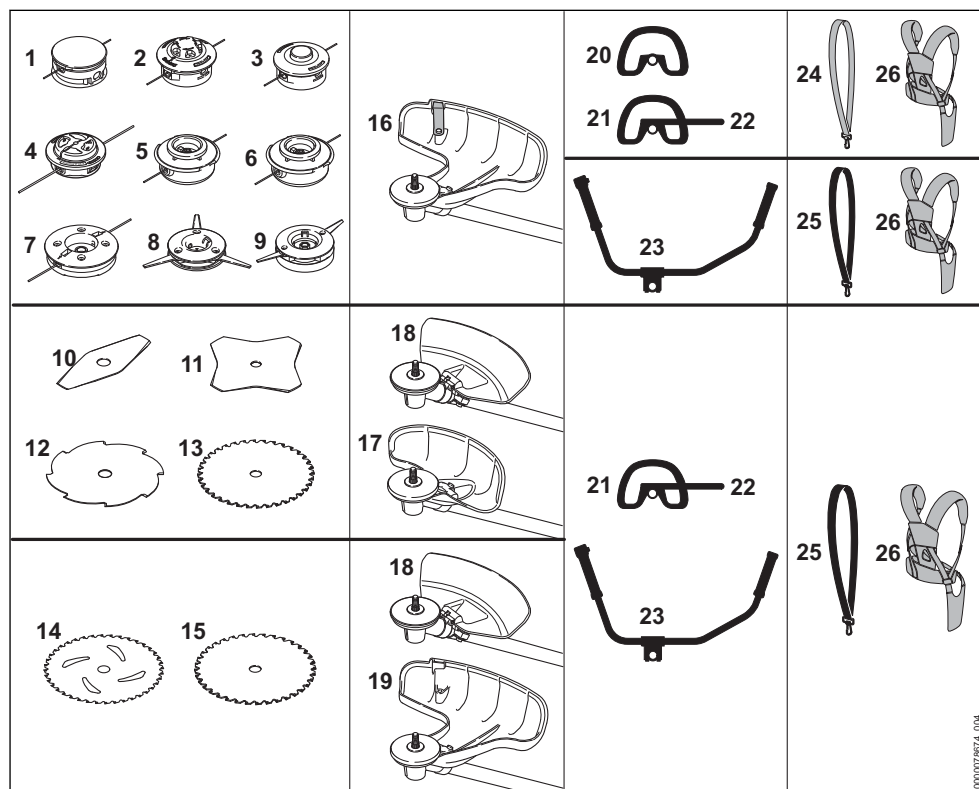
3 組み合わせ可能なカッティング アタッチメント、デフレクター、ハンドルおよびハーネス

カッティングアタッチメント

デフレクター

ハンドル

キャリングストラップ



3.1 使用可能な組み合わせ

使用するカッティングツールに応じて、表から適切な組み合わせを選択してください！



警告

安全上の理由から、表の同じ行に表示されているカッティングアタッチメント、デフレクター、ハンドル、ハーネスのみを組み合わせてください。**事故が起きる危険があるため、それ以外の組み合わせは許容されません！**

3.2 カッティングアタッチメント

3.2.1 草刈ヘッド

- 1 STIHL SuperCut(スーパーカット) 20-2
- 2 STIHL AutoCut(オートカット) C 25-2

- 3 STIHL AutoCut オートカット 25-2、AutoCut オートカット / AutoCut 27-2

- 4 STIHL AutoCut(オートカット) C 26-2
- 5 STIHL TrimCut(トリムカット) 31-2
- 6 STIHL TrimCut(トリムカット) 32-2
- 7 STIHL DuroCut(デュロカット) 20-2
- 8 STIHL PolyCut(ポリカット) 20-3
- 9 STIHL PolyCut(ポリカット) 28-2

3.2.2 金属製カッティングツール

最初の 3 桁は、金属製カッティングアタッチメントの mm 単位の外径を示しています。

- 10 草刈ブレード 230-2
(直径 230 mm)
- 11 草刈ブレード 230-4

- (直径 230 mm)
 12 草刈ブレード 230-8
 (直径 230 mm)
 13 草刈ブレード 230-36
 (直径 230 mm)
 14 草刈ブレード 255-40
 (直径 255 mm)
 15 草刈ブレード 255-36
 (直径 255 mm)



警告

非金属製の草刈ブレードは承認されていません。

3.3 デフレクター

- 16 草刈ヘッド用のライン制限ブレード付きデフレクター
 17 草刈りブレード (最大直径 230 mm) 専用デフレクター
 18 草刈りブレード (最大直径 255 mm) 専用デフレクター
 19 草刈りブレード (最大直径 255 mm) 専用デフレクター

3.4 ハンドル

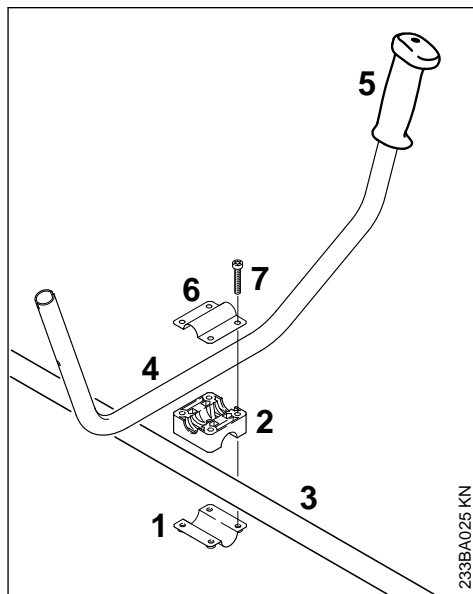
- 20 ループハンドル
 21 ループハンドル(以下の品目付き)
 22 バリアバー
 23 バイクハンドル

3.5 肩掛けベルト

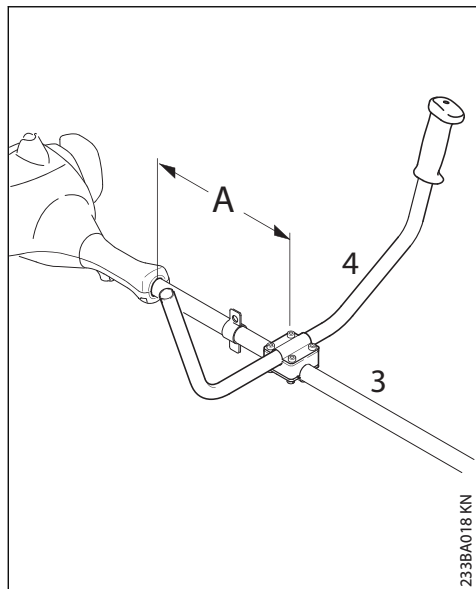
- 24 肩掛けベルトを使用可能
 25 肩掛けベルトを必ず着用
 26 フルハーネスを使用可能

4 バイク ハンドルの取り付け

4.1 ハンドルバーの取り付け

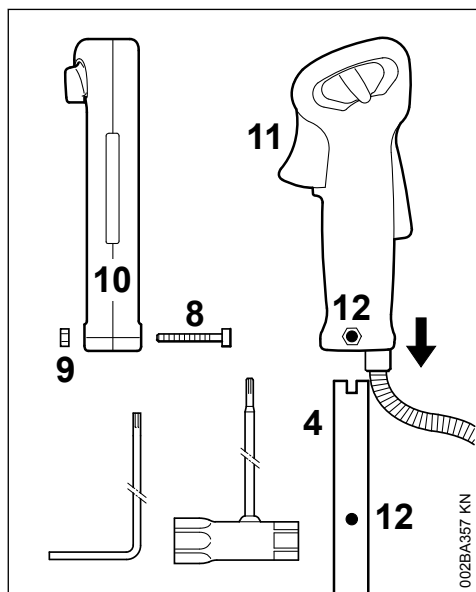


- ▶ クランプ (1) とハンドルバーサポート (2) をシャフト (3) に位置決めします。
- ▶ ハンドルバー (4) をハンドルバーサポートに位置決めします - ラバーハンドル (5) が (エンジンからハンドルバーに向かって) 左側に来るようにします。
- ▶ クランプ (6) をハンドルバーサポートに位置決めします。
- ▶ スクリュー (7) を各部品穴に通し、クランプ (6) に止まるまでねじ込みます。



- ▶ シャフト (3) 上のエンジンハウジングの前方、約 15 cm (6 in) の位置 (A) でハンドルバー (4) を固定します。
- ▶ ハンドルバーの位置を合わせ、スクリューをしっかり締め付けます。

4.2 コントロールハンドルの取り付け

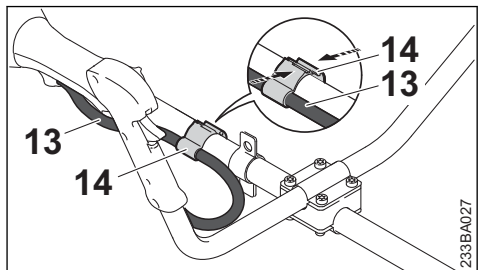


- ▶ ボルト (8) をコンビネーションレンチまたは六角レンチで緩めます - ナット (9) はコントロールハンドル (10) 内に残ります。
- ▶ スロットトリガー (11) をギアボックスに向け、コントロールハンドルをハンドルバー (4) に押し込み、穴 (12) の位置を合わせます。
- ▶ スクリュー □ (8) を差し込み、締め付けます。

4.3 スロットルケーブルの固定

注記

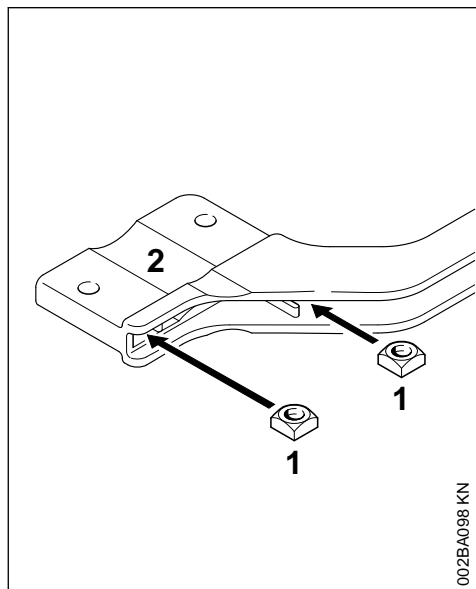
折れ曲がったり、取り付け半径が小さくなったりしないよう注意してスロットルケーブルを取り付けます - スロットトリガーがスムーズに動くことを確認してください。



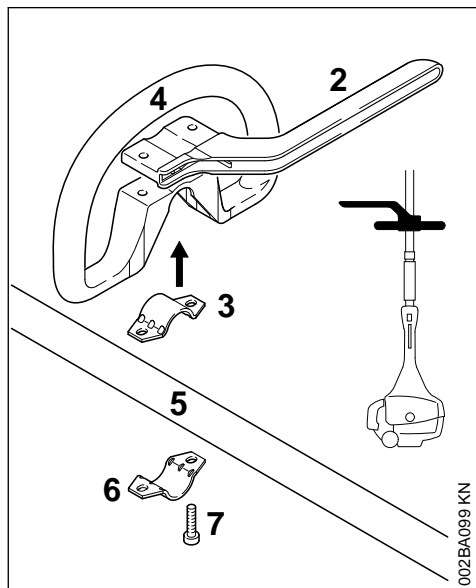
- ▶ スロットルケーブルリテイナー (14) とスロットルケーブル (13) をシャフトに固定します。
- ▶ スロットルケーブルリテイナー (14) をすぼめます。スロットルケーブルリテイナー (14) が定位置にはまると、カチッという音がします。

5 ループ ハンドルの取り付け

5.1 バリア バー付きループ ハンドルの取り付け

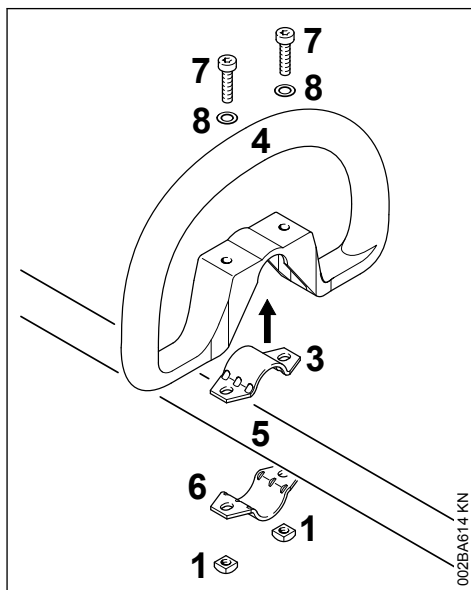


- ▶ 四角ナット (1) をバリアバー (2) に、穴が並ぶように取り付けます。



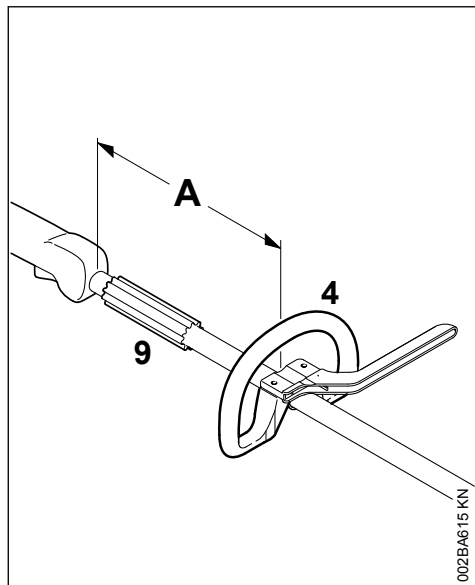
- ▶ クランプ (3) をループ ハンドル (4) に取り付け、一緒にドライブ チューブ (5) に当てます。
- ▶ クランプ (6) をドライブ チューブに配置します。
- ▶ バリア バー (2) を、図のように所定の位置に配置します。
- ▶ 穴を合わせます。
- ▶ スクリュー (7) を穴に差し込みます - バリヤーバー (2) に、突き当たるまでねじ込みます。
- ▶ 「ループ ハンドルの固定」の章を参照してください。

5.2 バリア バーなしループ ハンドルの取り付け



- ▶ クランプ (3) をループ ハンドル (4) に取り付け、一緒にドライブ チューブ (5) に当てます。
- ▶ クランプ (6) をドライブ チューブに配置します。
- ▶ 穴を合わせます。
- ▶ ワッシャー (8) をスクリュー (7) に装着し、スクリューを穴に差し込みます。四角ナット (1) を取り付け、止まるまで締め付けます。
- ▶ 「ループ ハンドルの固定」の章を参照してください。

5.3 ループ ハンドルの固定



作業者の身長と手の長さ、および用途に応じて距離 (A) を変更して、ループ ハンドルを調整できます。

推奨: 距離 (A): 約 20 cm (8 インチ)

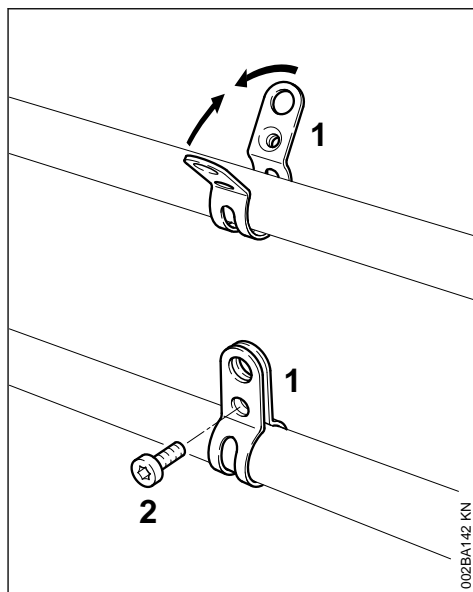
- ▶ ハンドルを必要な位置に滑らせます。
- ▶ ループハンドル (4) の位置を合わせます
- ▶ ループ ハンドルがドライブ チューブ上でそれ以上回転しないように、ネジを締め付けます。バリア バーなしの場合 - 必要があればナットをロックしてください。

スリーブ (9) (装着されていない機種があります) は、必ずループ ハンドルとコントロール ハンドルの間に取り付けます。

6 吊り下げ用リングの取り付け

6.1 金属バージョン

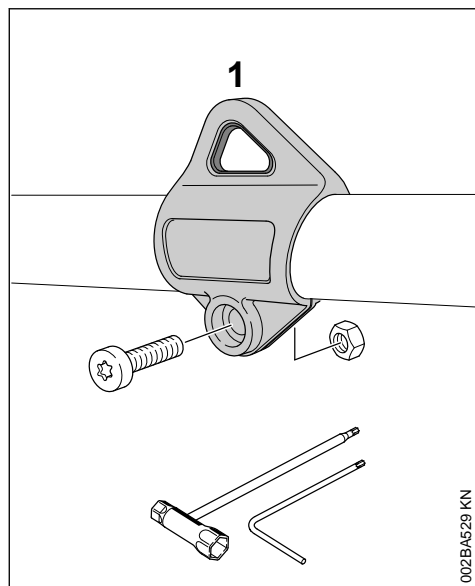
吊り下げ用リングは標準装備されているか、あるいは特殊アクセサリとしても供給されます。



吊り下げ用リングの位置については、「主要構成部品」を参照してください。

- ▶ ねじ穴付きクランプ (1) をエンジン側から見てねじ穴が左側になるように、ドライブチューブに取り付けます。
- ▶ クランプの端を押し付けます。
- ▶ スクリュー M6x14 (2) を差し込みます。
- ▶ 吊り下げ用リングの位置を調整します。
- ▶ スクリューでしっかりと締め付けます。

6.2 ポリマーバージョン

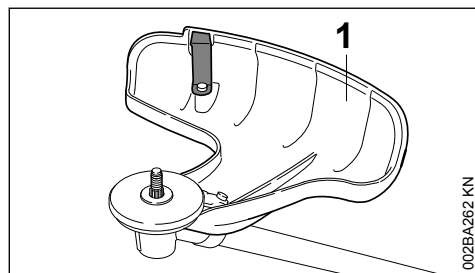


吊り下げ用リングの位置については、「主要構成部品」を参照してください。

- ▶ 吊り下げ用リング (1) をドライブチューブに押し込みます。
- ▶ M5 ナットを吊り下げ用リングの外部六角形に挿入します。
- ▶ M5x14 スクリューを取り付けます。
- ▶ 吊り下げ用リングの位置を調整します。
- ▶ スクリューでしっかりと締め付けます。

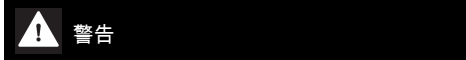
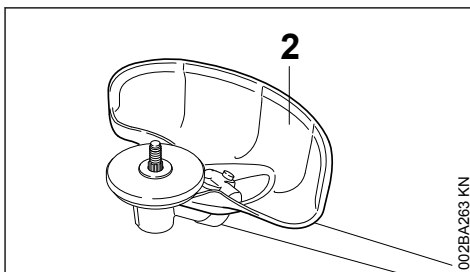
7 デフレクターの取付け

7.1 正しいデフレクターの使用



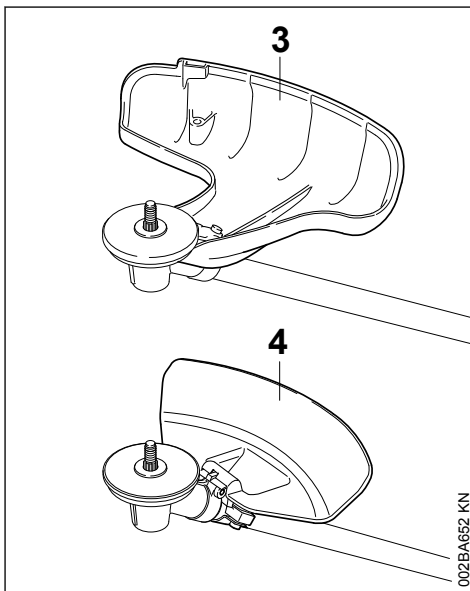
警告

デフレクター (1) はカッティングヘッドに対してのみ承認されているため、カッティングヘッドを取り付ける前に取り付ける必要があります。



警告

デフレクター (2) は直径 230 mm までの草刈りブレードに対してのみ承認されており、そのような草刈りブレードを取り付ける前に取り付ける必要があります。



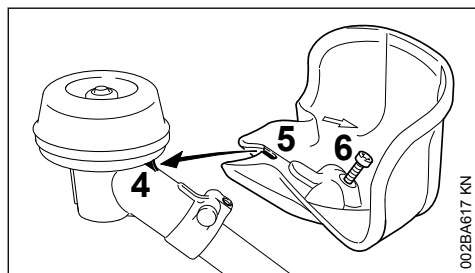


警告

デフレクター (3 および 4) は直径 255 mm までの草刈りブレードに対してのみ承認されており、そのような草刈りブレードを取り付ける前に取り付ける必要があります。

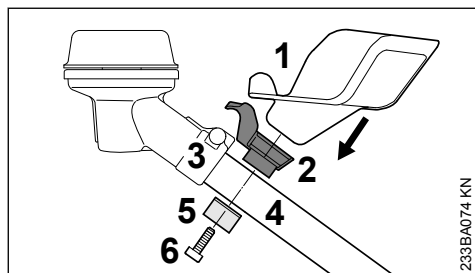
7.2 デフレクターの取り付け (1、2、および 3)

デフレクター (1、2、および 3) はすべて、ギヤボックスに同様に取り付けます。



- ▶ デフレクターをギヤボックスに位置合わせして、突出部 (4) がデフレクターのくぼみ (5) にかみ合うようにします。
- ▶ スクリュー (6) をしっかりと締め付けます。

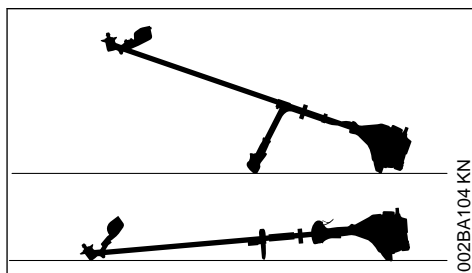
7.3 デフレクター (4) の取り付け



- ▶ クランプ (2) とデフレクター (1) をドライブチューブ (4) およびギヤボックス (3) に合わせます。
- ▶ クランプ (5) をデフレクターの上に付け、穴に合わせます。
- ▶ スクリュー (6) を差し込み、しっかりと締め付けます。
- ▶ デフレクターがしっかりと取り付けられたことを確認し、必要があればスクリューを再び締めます。

8 カutting アタッチメントの取付け

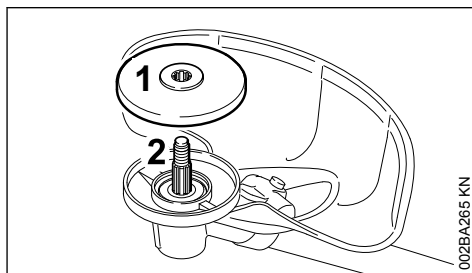
8.1 パワーツールを地面に置く



- ▶ エンジンを停止します。
- ▶ カutting アタッチメント装着部が上向きになるように、パワーツールを置きます。

8.2 スラスト プレートの取り付け

スラスト プレートは、機械に標準装備されています。



- ▶ スラスト プレート (1) をシャフト (2) の上に差し込みます。

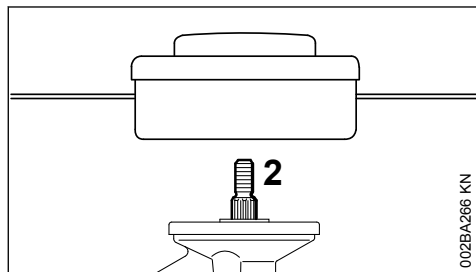
注記

ギアボックスのスラスト プレートは、カutting ツールの取り付けに必要です。

8.3 カutting アタッチメント固定用パーツの取り付け

納入される固定用パーツは、新しい刈払機に付属するカutting アタッチメントによって異なります。

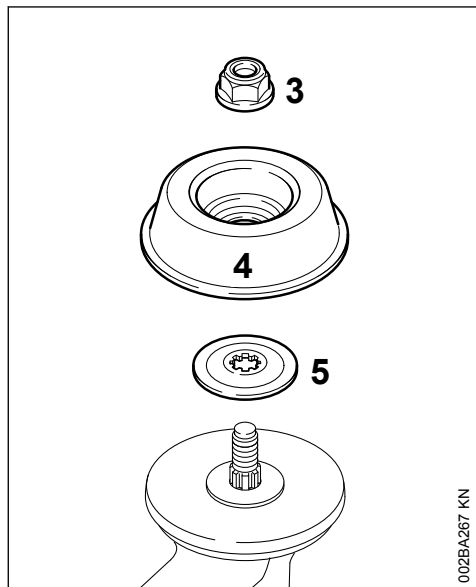
8.3.1 カutting アタッチメント固定用 パーツが機械に同梱されていない場合



シャフト (2) に直接取り付けするカutting ヘッドのみが使用されます。

8.3.2 カutting アタッチメント固定用 パーツが機械に同梱されている場合

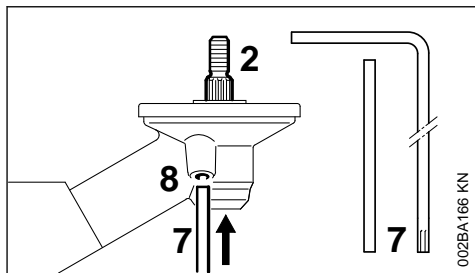
カutting ヘッドおよび金属製カutting ツールが取り付けられます。



ナット (3)、ライダープレート (4) およびスラストワッシャー (5) は、特定のカutting ヘッドを固定するために必要です。

これらの部品は、機械と一緒に提供されるキットに含まれており、特殊アクセサリとしても供給されます。

8.4 シャフトを固定します。



出力シャフト (2) をストップピン (7) またはスクリュードライバー (7) で固定してから、カutting ツールの取り付けまたは取り外しをする必要があります。これらの部品は、機械に標準装備されているが、特殊アクセサリとして供給されます。

- ▶ ストップピン (7) またはオフセットスクリュードライバー (7) を、ギアボックスの穴 (8) に止まるまで差し込みます - さらに少し押しします。
- ▶ リミットストップが所定の位置にはまりシャフトが固定されるまで、シャフトまたはカutting アタッチメントを回します。

8.5 カutting アタッチメントの取付け

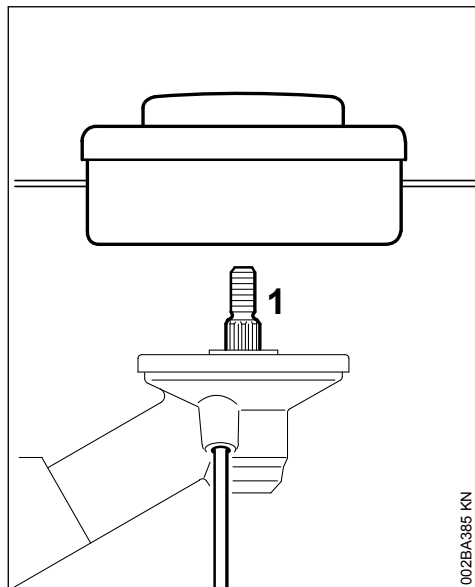


警告

カutting アタッチメントに適合するデフレクターを使用します - 「デフレクターの取り付け」を参照してください。

8.6 スクリュー取り付け部付き草刈ヘッドの取り付け

草刈ヘッドの取扱説明書は安全な場所に保管してください。



002BA385 KN

- ▶ スラストプレートを取り付けます
- ▶ 草刈ヘッドをシャフト (1) 上で止まるまで反時計回りにまわします
- ▶ シャフトを固定します
- ▶ 草刈ヘッドを締め付けます

注記

シャフトを固定するために使用した工具を取り外します。

8.7 草刈ヘッドの取り外し

- ▶ シャフトを固定します
- ▶ 草刈ヘッドを時計回りにまわします

8.8 金属製カutting アタッチメントの取り付け

金属製カutting ツールの取扱説明書および包装を、安全な場所に保管してください。

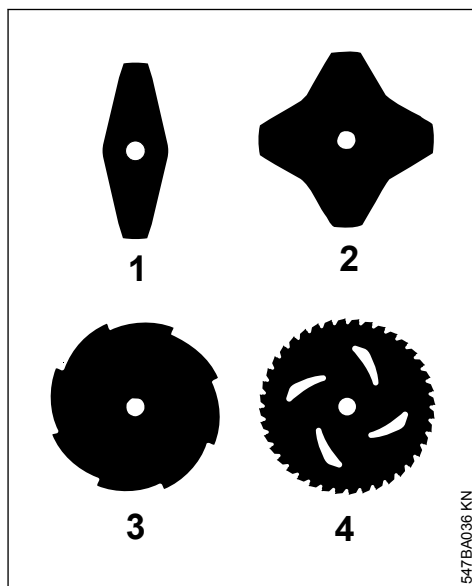


警告

保護手袋を着用し、鋭利な刃先に直接触れる危険を低減します。

金属製カutting アタッチメントのみ取り付けてください。

カutting アタッチメントの回転方向の確認



547BA036 KN

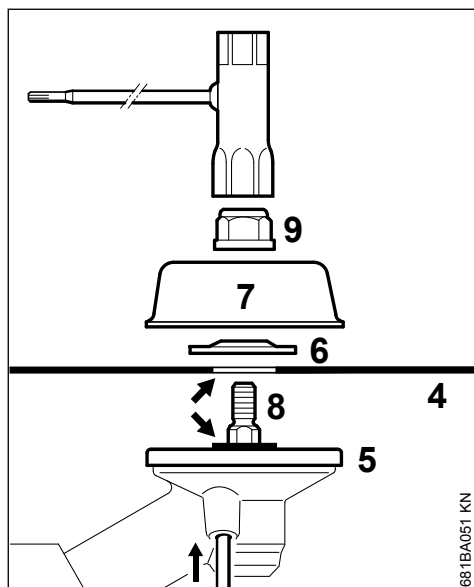
草刈ブレード (1) と (2) の刃先は、いずれの方向を向いていてもかまいません - これらのカutting アタッチメントは、向きを定期的に変えて、片側だけが磨耗しないようにする必要があります。

草刈ブレード (3) および (4) の刃先は、時計方向を向いている必要があります。



警告

回転方向は、デフレクターの内側に、矢印で示されています。



- ▶ カutting アタッチメント (4) をスラストプレート (5) 上に置きます。



警告

カラー (矢印) がカutting アタッチメントの取り付け穴に入っている必要があります。

カutting アタッチメントの固定

- ▶ スラスト ワッシャー (6) を取り付けます。凸側は上方を向いている必要があります。
- ▶ ライダープレート (7) を取り付けます。
- ▶ シャフト (8) を固定します。
- ▶ 取り付けナット (9) をシャフトに装着し、反時計方向に回してしっかりと締め付けます。



警告

取付けナットが緩くなりすぎたら、新しいナットを取り付けてください。

注記

シャフト固定用ツールを抜き取ります。

8.9 金属製カutting アタッチメントの取り外し



警告

保護手袋を着用し、鋭利な刃先に直接触れる危険を低減します。

- ▶ シャフトを固定します。
- ▶ ナットを時計回りに回して取り外します。
- ▶ カutting アタッチメントおよびその取り付け部品をギアボックスから外します。ただし、スラストプレート (5) は外さないでください。

9 燃料

エンジンには、ガソリンとエンジンオイルの混合燃料が必要です。



警告

燃料に直接触れたり、ガソリンの気化ガスを吸い込んだりしないよう注意してください。

9.1 STIHL MotoMix (モトミックス)

STIHL 社では、STIHL MotoMix の使用をお勧めしています。このあらかじめ混合された燃料はベンゼンや鉛を含まず、高オクタン価を特徴とし、常に適切な混合比をもたらします。

STIHL MotoMix には、エンジン寿命を最長化するために STIHL HP Ultra 2 ストロークエンジンオイルが使用されています。

MotoMix は、販売されていない市場もあります。

9.2 燃料の混合

注記

仕様と異なる不適切な燃料や混合比を用いると、エンジンに重度の損傷が生じるおそれがあります。低品質のガソリンやエンジンオイルは、エンジン、ガスケット、燃料ライン、燃料タンクを損傷させることがあります。

9.2.1 ガソリン

オクタン価が 90 以上の**高品質ガソリン**だけを使用してください。無鉛、有鉛は問いません。

アルコール濃度が 10% を超えるガソリンは、手動調整可能キャブレター付きエンジンではエンジン性能を低下させるおそれがあるため、そうしたエンジンには使用しないでください。

M-Tronic 搭載エンジンは、アルコール濃度が 27% までのガソリン(E27)を使用して本来の性能を発揮します。

9.2.2 エンジンオイル

ご自身で燃料を混合する場合は、STIHL 2 ストロークエンジンオイルまたは JASO FB、JASO FC、JASO FD、ISO-L-EGB、ISO-L-EGC あるいは ISO-L-EGD に準拠する他の高性能エンジンオイルを使用してください。

機械が寿命に達するまでの全期間で排ガス基準が満たされるよう、STIHL 社では STIHL HP Ultra(ウルトラ) 2 ストロークエンジンオイルまたは同等の高性能エンジンオイルの使用を指定しています。

9.2.3 混合比率

1:50 の比率で STIHL 2 ストロークエンジン オイルとガソリンを混合してください(オイル 1 に対してガソリン 50)。

9.2.4 例

ガソリン量	STIHL 2 ストロークエンジンオイル 1:50
リットル	リットル (ml)
1	0.02 (20)
5	0.10 (100)
10	0.20 (200)
15	0.30 (300)
20	0.40 (400)
25	0.50 (500)

▶ 承認されている安全な燃料容器にオイルを注入してからガソリンを加え、完全に混ぜ合わせます。

9.3 混合燃料の保管

燃料は承認されている安全な燃料容器に入れ、乾燥して涼しく、安全な、照明や太陽光から保護された場所に保管します。

混合燃料は時の経過に伴って劣化します - 数週間分の必要量だけを混合してください。混合燃料は 30 日以上保管しないでください。照明、太陽光、低温、高温にさらすと、混合燃料はより短期間で使用できなくなることがあります。

STIHL MotoMix は、問題なく最長 5 年間保管することができます。

▶ 混合燃料が入った容器(携行缶)をよく振ってから給油してください。



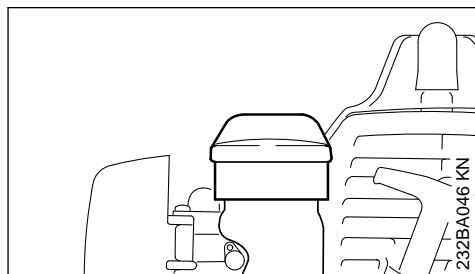
警告

携行缶の内圧が高まっている可能性があるため、キャップは慎重に開けてください。

▶ 混合燃料を保管する燃料タンクや容器は、ときどき徹底的に清掃してください。

残存する燃料や清掃に使用した液体は、規制に従って環境に害を及ぼさないように廃棄してください!

10 給油



- ▶ 給油する前に、汚れがタンクの中に入るのを防ぐため、フィルターキャップとその周りをきれいにしてください。
- ▶ フィラーキャップが上を向くように機械を置きます。
- ▶ フィラーキャップを開きます。

給油の際には燃料をこぼしたり、あふれさせないでください。当社では STIHL フィラーノズル(特殊アクセサリ)の使用をお勧めします。



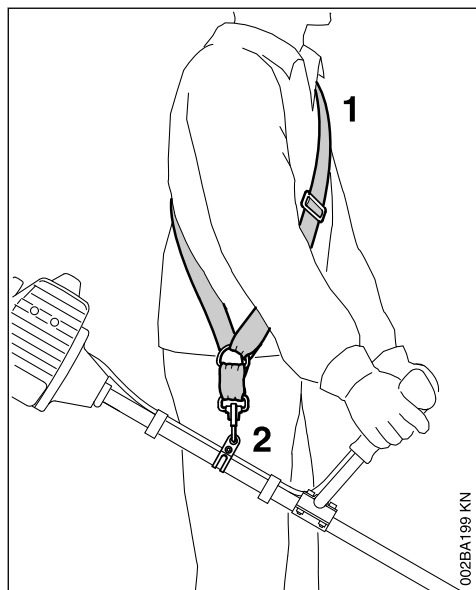
給油の後は、ファイラー キャップをできる限りしっかりと手で閉めてください。

11 ハーネスの取付け

市場によって、ハーネスのタイプとスタイルが変わります。

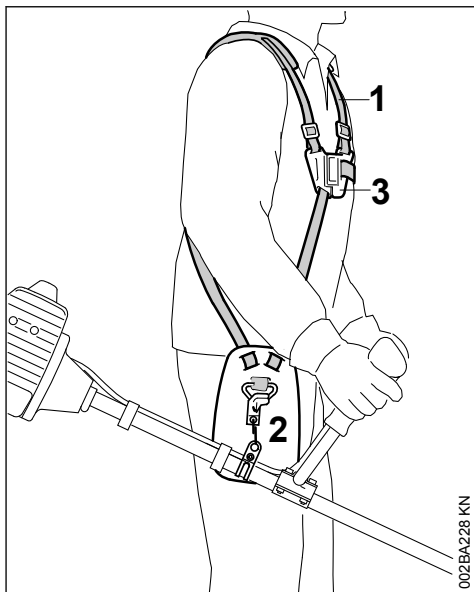
ハーネスの使用法は、「各機種に組み合わせ可能なカッティング アタッチメント、デフレクター、ハンドルおよびハーネス」の章を参照してください。

11.1 肩掛けベルト



- ▶ 肩掛けベルト (1) を肩に掛けます。
- ▶ ベルトの長さを調整して、カラビナ (2) が、右腰から手幅分下の位置にくるようにセットします。
- ▶ 機械のバランスを取ります。

11.2 フル ハーネス



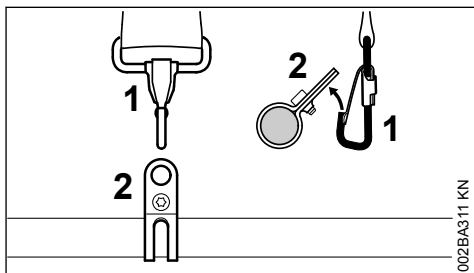
- ▶ ハーネス (1) を着用し、ロッキングプレート (3) を閉じます。
- ▶ ベルトの長さを調整します - 機械を取り付けた状態で、カラビナ (2) が作業者の右腰下で片手くらいの幅になるようにする必要があります。
- ▶ 機械のバランスを取ります - 「機械のバランスの取り方」を参照してください。

12 ユニットのバランス

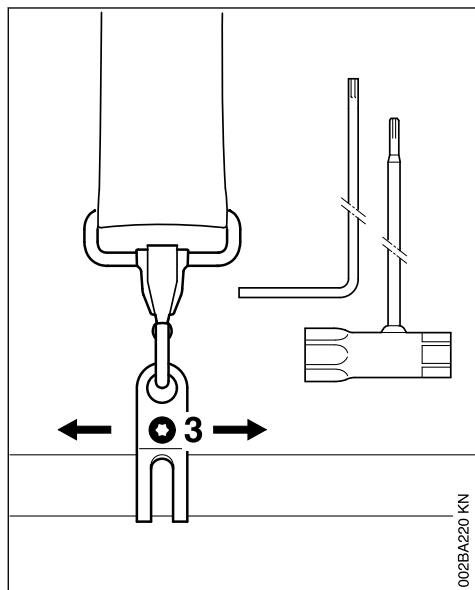
ハーネスとカラビナ (スプリング フック) のタイプとスタイルは、市場によって異なります。

吊り下げ用リングは、ループハンドルのコントロール ハンドルに一体化されています - 「主要構成部品」を参照してください。ループハンドルは、バランス調整する必要がありません。

12.1 ハーネスへの機械の取り付け

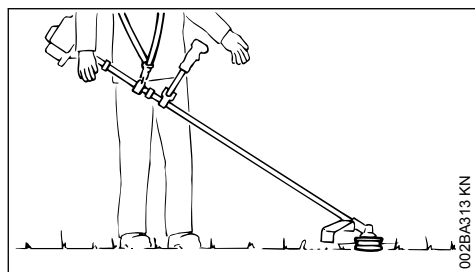


- ▶ カラビナ (1) をドライブ チューブの吊り下げ用リング (2) に掛けます。



- ▶ スクリュー (3) を緩めます。

12.2 浮動位置



- ▶ 通常の作業姿勢で、カッティングヘッドおよび草刈りブレードが地面に軽く触れる必要があります。

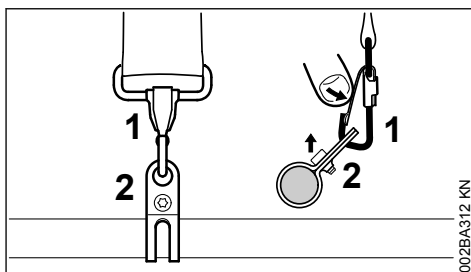
次の手順に従って、浮動位置を調整します。

- ▶ 吊り下げ用リングをドライブチューブで上下に動かします - スクリューを軽く締めつけます - 装置を浮かせ、バランスが取れるまで待ちます - その後浮動位置を確認します。

適切な浮動位置に設定できた後：

- ▶ 吊り下げ用リングのスクリューをしっかりと締め付けます。

12.3 ハーネスからの機械の取り外し

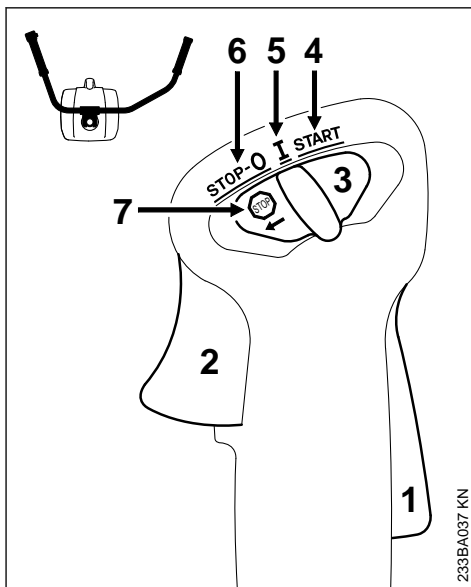


- ▶ カラビナのバー (1) を押して、吊り下げ用リング (2) をカラビナから引き抜きます。

13 エンジンの始動と停止

13.1 バイク ハンドルを装備した機種

13.1.1 操作



- 1 スロットルトリガー ロックアウト
- 2 スロットルトリガー
- 3 スライドコントロール

13.1.2 スライドコントロールの位置

- 4 START - イグニッションがオンの状態 - エンジンが始動可能
- 5 I - 通常運転の位置 - エンジン運転中または始動可能

6 STOP-0 - エンジンが停止 - イグニッションがオフの状態

13.1.3 スライドコントロールのシンボル

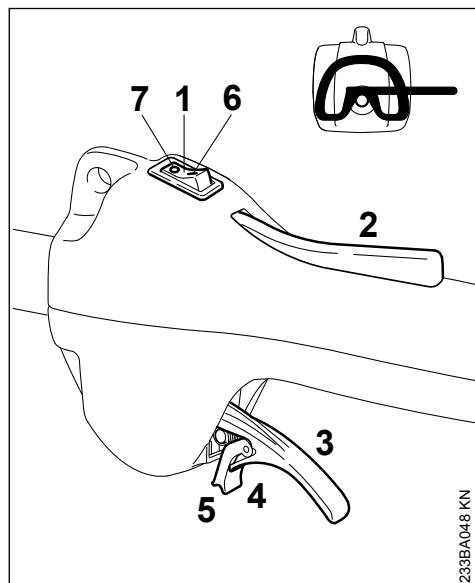
7 ☹ - 停止シンボルと矢印。エンジンを停止するには、スライドコントロールを、停止記号(☹)の矢印の方向に STOP-0 まで押します。

13.1.4 始動

- ▶ トリガー ロックアウト レバーを押して下げて、スロットルトリガーを強く握ります
- ▶ その位置で保持します。
- ▶ スライドコントロールを **START** の位置に動かし、その状態で保持します。
- ▶ スロットルトリガー、スライドコントロール、トリガー ロックアウトの順で放します。これが **始動スロットル位置**です
- ▶ "すべての機種" を参照してください。

13.2 ループハンドル機種

13.2.1 操作



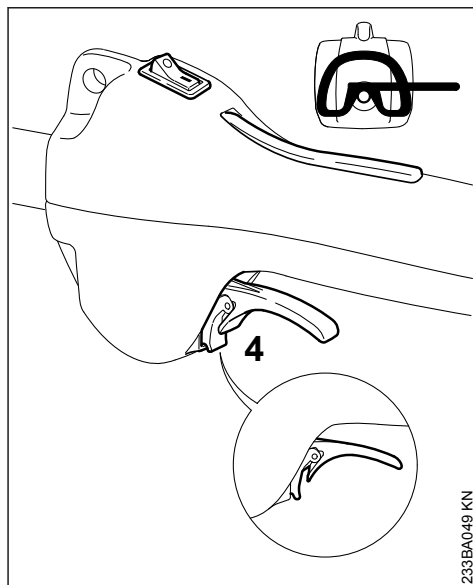
- 1 停止スイッチ
- 2 スロットルトリガー ロックアウト
- 3 スロットルトリガー
- 4 スロットルトリガーのトング
- 5 キャッチ

停止スイッチの位置

6 | - 通常運転の位置 - エンジン始動可能または運転中

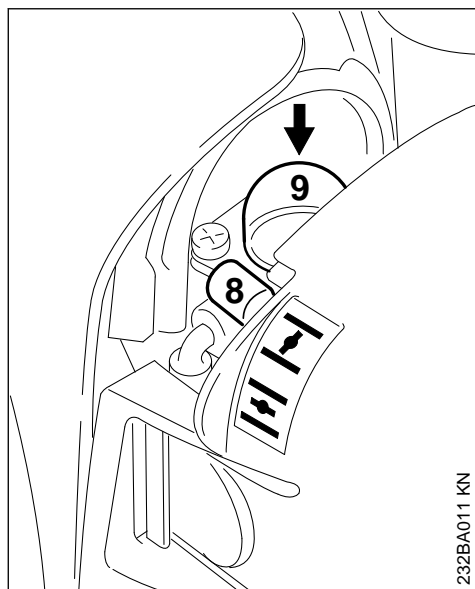
7 0 - Stop - エンジンが停止 - イグニッションがオフの状態

13.2.2 始動



- ▶ 停止スイッチを1に移動します。
- ▶ スロットルトリガー インターロックを押下し、そこで保持します。
- ▶ トング (4) のキャッチがハウジングとかみ合うまでスロットルトリガーを握ります。
- ▶ スロットルトリガー、トング、トリガー ロックアウトの順で放します。これが **始動スロットル位置**です。
- ▶ "すべての機種" を参照してください。

13.3 すべての機種

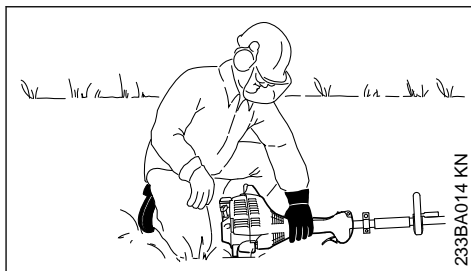
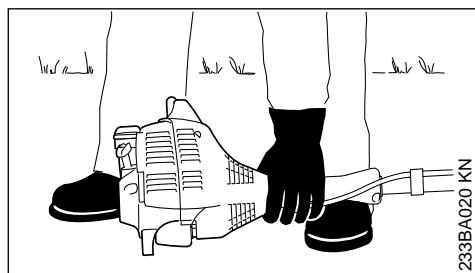


- ▶ チョーク レバー (8) を次のようにセットします。

アイ エンジンが冷えている場合
ニ 暖機スタートの場合 - エンジンの始動後、温まりきっていない場合もこの位置を使用します。

- ▶ 手動燃料ポンプ (9) を最低 5 回押してください - ポンプに燃料が充填されている場合でも、同様の操作を行います。

13.3.1 始動操作



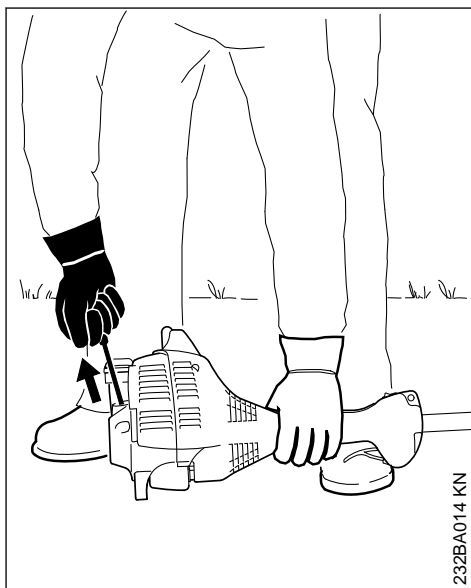
- ▶ 機械を地面に置きます。エンジンサポートとデフレクターを地面にしっかりと当てます。
- ▶ 装着されている場合：運搬用ガードをカッティングアタッチメントから取り外します。

事故の危険を低減するにはカッティングアタッチメントは、地面やその他の物体と接触してはいけません。

- ▶ 立つか、かがむか、ひざまずいて、安定した足場を確保します。
- ▶ 機械を **しっかり** 左手で固定して押し付けます - スロットルトリガー、ロックアウト レバーや停止スイッチに触れないでください。

注記

ドライブ チューブに足を載せたりひざまずいたりしないでください。



- ▶ 右手でスターター グリップを握ります。

13.3.2 エルゴスタートなしの機種

- ▶ スターター グリップをゆっくり引き、かみ合った感じがした時に、素早く勢い良くグリップを引っ張ります。

注記

スターターロープは最後まで引き出さないでください。切れる恐れがあります。

13.3.3 エルゴスタート付き機種

- ▶ スターター グリップをゆっくり引き、かみ合った感じがした時に、ゆっくり確実に引き出します。

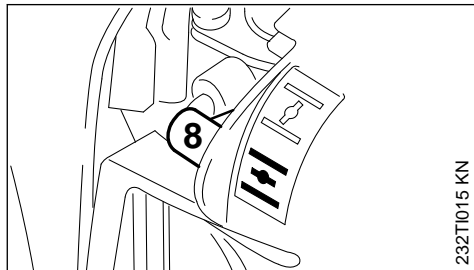
注記

スターターロープは最後まで引き出さないでください。切れる恐れがあります。

13.3.4 両方の機種

- ▶ スターター グリップを急に放さないでください。手を添えてハウジングにゆっくりと巻き込むとスターター ロープは正しく巻き込まれます。
- ▶ 始動操作を続けます。

13.3.5 エンジンが初爆したら



- ▶ 最高でも 5 回 引っ張ったら、チョーク レバー (8) を II に移動します。
- ▶ 始動操作を続けます。

13.3.6 エンジンがかかったらすぐに

バイクハンドル付き機種

- ▶ スロットル トリガーを軽く引きます - エンジンはアイドリング回転になります。

ループハンドル付き機種

- ▶ スロットル トリガーを握って Tongue を解除します。エンジンがアイドリング回転数で安定します。

これで機械の使用準備が完了しました。



警告

キャブレターが適正に調整されていることを確認します。エンジンのアイドリング回転時に、カッティング アタッチメントが回転しないようにしてください。

13.4 エンジンの停止

- ▶ スライドコントロールを矢印の方向 (→) に STOP-0 まで動かすか、停止スイッチを STOP / 0 に移動します。

13.5 エンジンがかからない場合

チョーク レバー

エンジンが初爆した後すぐにチョークレバーを II の位置に動かさないと、燃料室に燃料を吸い込みすぎてしまいます。

- ▶ チョークレバーを II に設定します。
- ▶ スライドコントロール、トリガー ロックアウト レバーおよびスロットル トリガーを 始動 スロットル位置に設定します。
- ▶ スターター ロープを素早く引っ張って、エンジンを起動します - 10 回から 20 回必要なことがあります。

13.5.1 それでもエンジンがかからない場合

- ▶ スライドコントロールあるいは停止スイッチを STOP / 0 へ動かします。
- ▶ スパーク プラグを取り外します - 「スパーク プラグ」を参照してください。
- ▶ スパーク プラグを乾かします。
- ▶ 燃焼室の換気のため、スターターを数回引っ張ります。
- ▶ スパーク プラグを再び取り付けます - 「スパーク プラグ」を参照してください。
- ▶ スライドコントロールあるいは停止スイッチを I / I へ動かします。
- ▶ チョークレバーを II に設定します。エンジンが冷えている場合も同様です。
- ▶ エンジンを再始動します。

13.5.2 燃料タンクが完全に空になった場合

- ▶ 再給油したら、手動燃料ポンプに燃料が充填されている場合でも、燃料ポンプを最低 5 回押してください。
- ▶ チョークレバーを、エンジン温度に合わせてセッティングします。
- ▶ エンジンを再始動します。

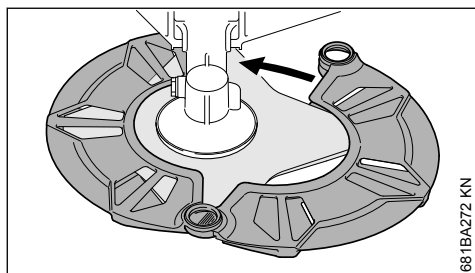
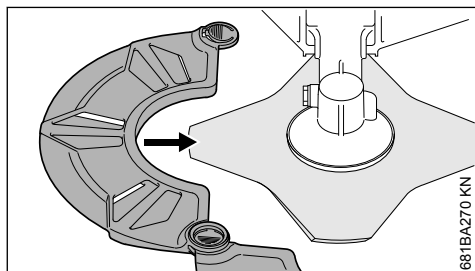
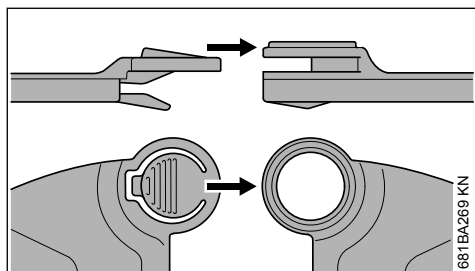
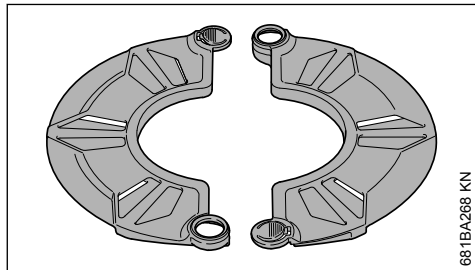
14 機械の運搬

14.1 運搬用ガードの使用

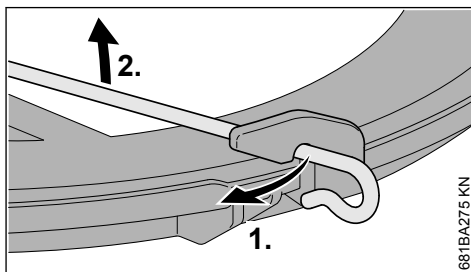
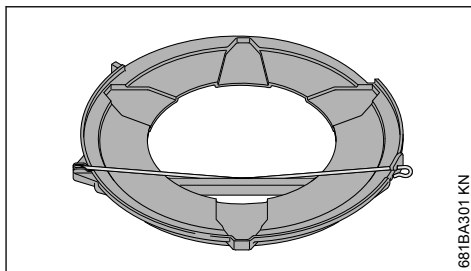
本機とともに提供される運搬用ガードの種類は、金属製カッティングアタッチメントの種類によ

って異なります。運搬用ガードは特別な付属品として供給されます。

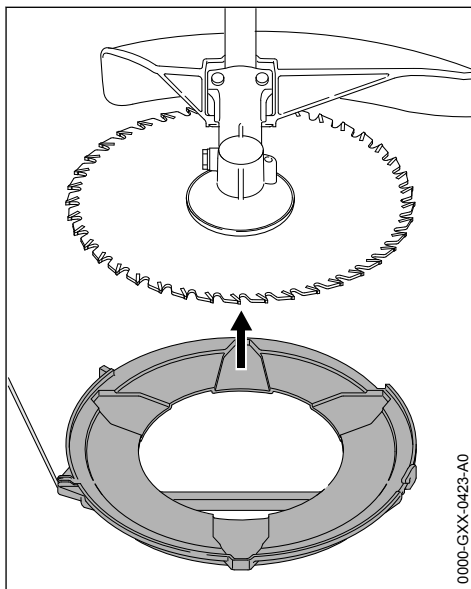
14.2 230 mm 草刈ブレード



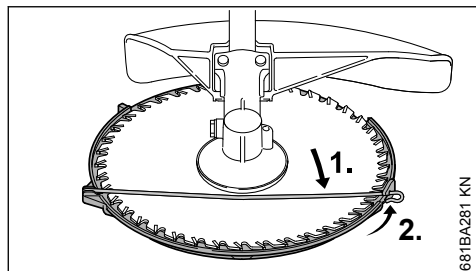
14.3 最大 260 mm の草刈ブレード



- ▶ 運搬用ガードからワイヤーロッドを外します。
- ▶ ワイヤーロッドを外側に回します。



- ▶ 運搬用ガードを下側からカッティングアタッチメントに取り付けます。



- ▶ ワ이어ロッドを所定の位置に回します。
- ▶ ワ이어ロッドを運搬用ガードに引っ掛けます。

15 作業中の注意事項

15.1 ならし運転

新品の機械は、最初の燃料 3 タンク分の間は、高速回転(無負荷でフルスロットル)で運転しないでください。これでならし運転中の不要な高負荷を避けます。すべての動く部品は、ならし運転中になじんでくるので、この期間はエンジンの摩擦抵抗が大きくなっています。エンジンの最高出力を発揮できるのは、タンク 5～15 回分の使用後となります。

15.2 作業中

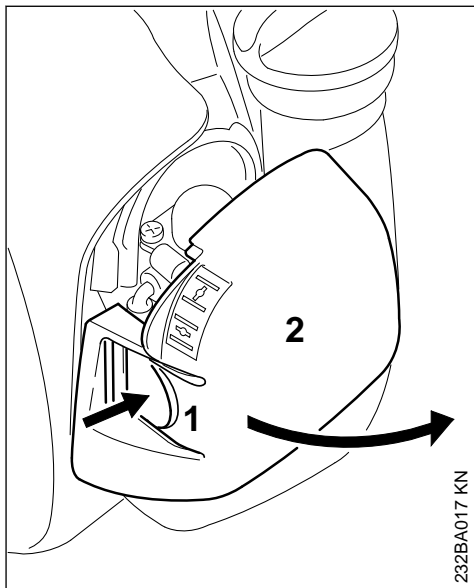
長時間のフルスロットル運転後は、しばらくの間アイドリングしてエンジンの熱を冷却風で放熱してください。組み込まれている部品(イグニッションやキャブレター)を熱から守るためです。

15.3 作業後

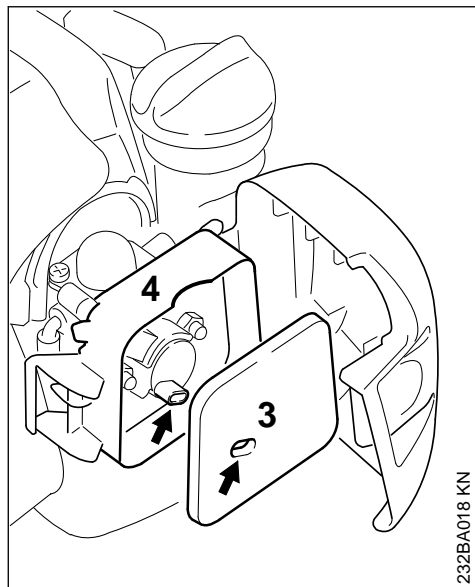
短期間使用しない場合：エンジンが冷えるまで待ちます。燃料タンクを空にして、次の使用時まで火気のない乾燥した状態で保管します。長期間に未使用の場合は、「機械の保管」を参照してください。

16 エアフィルターの掃除

16.1 エンジンの出力が著しく低下した場合



- ▶ チョークレバーを Ⅱ にセットします。
- ▶ タブ (1) を押し込み、フィルター カバー (2) を下に回します。
- ▶ フィルターの周りに付着した汚れを取り除きます。



- ▶ フェルト エLEMENT (3) をフィルター ハウジング (4) から外し、交換します - 一時的な対処法として手でたたいたり、風を吹き付けて掃除します - 洗浄はしないでください。
- ▶ 破損した部品は交換してください。
- ▶ フェルト エLEMENT (3) をフィルター ハウジング (4) に取り付けます。
- ▶ フィルター カバーを閉じ、正しい位置に合うようにします。

17 キャブレターの調整

17.1 基本情報

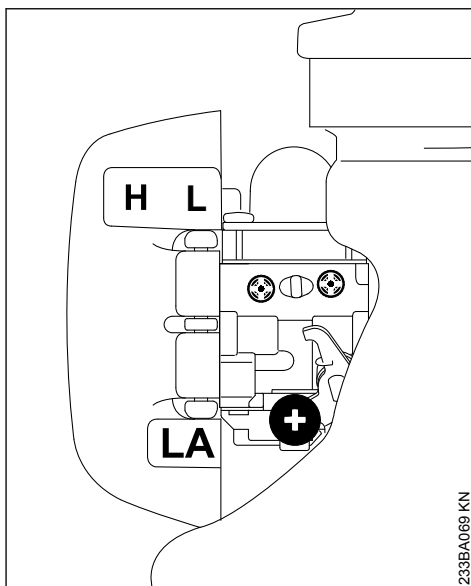
キャブレターは工場出荷時に標準設定されています。

この設定で、ほとんどの運転状況で最適な混合気が得られます。

17.2 準備

- ▶ エンジンを停止します。
- ▶ カutting アタッチメントを取り付けます。
- ▶ エアー フィルターを点検し、必要場合は掃除あるいは新品と交換します。

17.3 標準設定



- ▶ 高速調整スクリュー (H) を時計方向に、止まるまで慎重に回します。その後、2 回転戻します。
- ▶ 低速調整スクリュー (L) を時計方向に、止まるまで慎重に回します。その後、1 1/2 回転戻します。

17.4 アイドリング回転の調整

- ▶ 標準設定を行います。
- ▶ エンジンをかけて暖機します。

17.4.1 アイドリング回転中にエンジンが停止する

- ▶ アイドリング スピード調整スクリュー (LA) を、エンジンがスムーズに作動するまで、時計回りにゆっくりと回します - Cutting アタッチメントが回転してはいけません。

17.4.2 アイドリング回転中にCutting アタッチメントが動く場合は

- ▶ アイドリング スピード調整スクリュー (LA) を、Cutting アタッチメントが停止するまで反時計方向に回した後、さらに 1/2 から 1 回転、同じ方向に回します。



警告

エンジンのアイドリング回転時にカッティングアタッチメントが回転し続ける場合、サービス店に点検と修理を依頼してください。

17.4.3 アイドリング回転が不安定で、加速状態が悪い場合は (LA スクリューの設定を修正した後も)

アイドリング設定が薄すぎます：

- ▶ 低速調整スクリュー (L) を、エンジンがスムーズに作動し十分に加速するようになるまで、時計回りに約 1/4 回転ゆっくりと回します。

17.4.4 アイドリングが不安定な場合は

アイドリング設定が濃すぎます：

- ▶ 低速調整スクリュー (L) を、エンジンがスムーズに作動し十分に加速するようになるまで、時計回りに約 1/4 回転ゆっくりと回します。

低速調整スクリュー (L) を調整する度に、大抵の場合は、アイドリングスピード調整スクリュー (LA) を設定変更する必要があります。

17.5 高地で作業する場合の微調整

エンジン性能が充分でない場合は、わずかな調整が必要になる場合があります：

- ▶ 標準設定を行います。
- ▶ エンジンを暖機運転します。
- ▶ 高速調整スクリュー (H) を僅かに時計回り (薄くする) に、3/4 回転以内の範囲で回します。

注記

高地から降りてきた後は、キャブレターを標準設定に戻します。

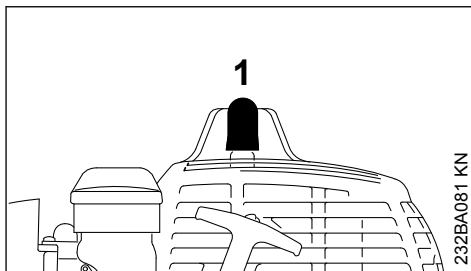
設定を薄くしすぎると、潤滑オイルの不足と過熱により、エンジンが破損する危険があります。

18 スパーク プラグ

- ▶ エンジンの出力が低下したり、始動しにくくなったりアイドリングが不安定になったら、先ずスパーク プラグを点検してください。
- ▶ 約 100 時間運転後には新品のスパークプラグと交換してください - 電極が極度に焼損している場合はそれよりも早く交換してください。スチール社が承認した、雑音防止スパークプラグのみをご使用ください - 「技術仕様」の項を参照してください。

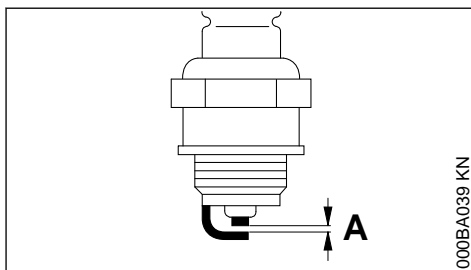
18.1 スパーク プラグの取り外し

- ▶ 停止スイッチを 0 に動かします。



- ▶ スパーク プラグ ターミナル (1) を抜き取ります。
- ▶ スパーク プラグを緩めます。

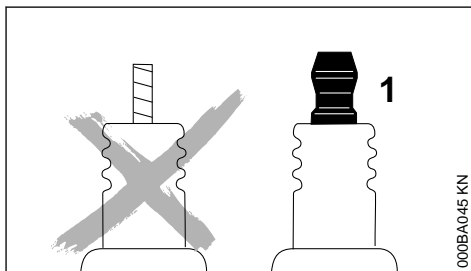
18.2 スパークプラグの点検



- ▶ 汚れたスパークプラグをきれいにします。
- ▶ 電極ギャップ(A)を点検して、必要な場合は調整します - 数値は「技術仕様」の項を参照してください。
- ▶ 以下のような、スパークプラグが汚れる原因を排除してください。

原因：

- エンジンオイル混合量の過多
- エアークフィルターの汚れ
- 劣悪な使用環境





警告

アダプターナット (1) が緩んでいるか、外れている場合はアークが発生することがあります。発火または爆発が起きやすい環境下で作業を行うと、実際の火災または爆発が発生する恐れがあります。この場合、作業員が重傷を負ったり、建物に損傷を与えたりする可能性があります。

- ▶ 抵抗入タイプのスパークプラグを使用し、アダプターナットをしっかりと締め付けてください。

18.3 スパークプラグの取り付け

- ▶ スパークプラグを座位にねじ込み、ターミナルをしっかりと押し込んで取り付けます。

19 エンジンの動作

エア フィルターを掃除してキャブレターを適切に調整しても、エンジンの動作が不十分な場合は、マフラーが原因の可能性があります。

マフラーが汚れていないか (カーボンで詰まる)、スチール サービス店で点検してください。

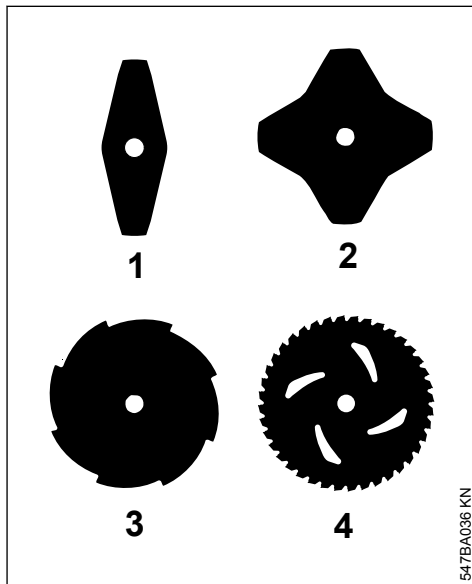
当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店のみに依頼されることをお勧めします。

20 機械の保管

約 30 日以上使用しない場合

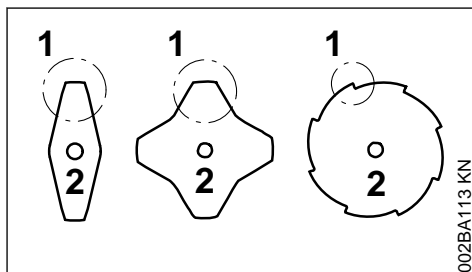
- ▶ 換気の良い場所で燃料タンクを空にし、洗浄します。
- ▶ 燃料は、地域の環境規制に従って処分してください。
- ▶ 手動燃料ポンプが装着されている場合は、手動燃料ポンプを 5 回以上押します。
- ▶ エンジンを始動し、停止するまでアイドルングさせます。
- ▶ カutting アタッチメントを取り外し、きれいに点検してください。金属製カutting アタッチメントを腐食防止剤でコーティングしてください。
- ▶ 機械を丁寧に掃除します - 特にシリンダーフィンとエア フィルターに注意します。
- ▶ 機械を乾燥した、安全な場所に保管してください - 子供などによる許可外の使用を避けてください。

21 金属製カutting ブレードの目立て



547BA036 KN

- ▶ 目立てやすり (「特殊アクセサリ」を参照) を使用して、切れ味が悪くなったカutting アタッチメント (1)、(2) および (3) を目立てします。磨耗が激しい場合は、グラインダーを使って目立てをするか、サービス店に依頼してください - 当社は、スチール サービス店に依頼されることを、お勧めします。
- ▶ カutting アタッチメント (4) 硬化処理された刃先が使用されているため、手で目立てすることはできません。摩耗が深刻な場合は、グラインダーを使って目立てをするか、サービス店に依頼してください - 当社は、スチール サービス店に依頼されることを、お勧めします。
- ▶ 目立てを頻繁に行い、ほんのわずが刃先を擦ります。通常の見立てではやすりを 2~3 回当てることで十分です。



002BA113 KN

- ▶ 刃 (1) を均一に目立てします - 元刃 (2) の形状を変えないでください。

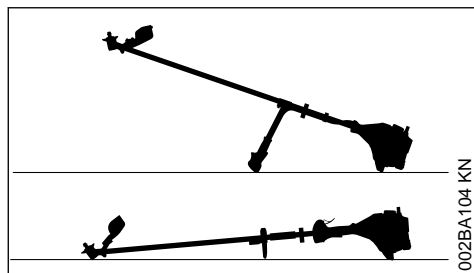
補足的な目立ての注意事項は、カutting アタッチメントの包装を参照してください。将来のために、包装は保管しておいてください。

21.1 バランスをとる

- ▶ 約 5 回ヤスリがけした後は、スチール バランス (「特殊アクセサリ」を参照) でカutting アタッチメントのバランスが崩れていないか確認するか、または専門店に確認を依頼してください - 当社は、スチール サービス店に依頼されることを、お勧めします。

22 カutting ヘッドの保守

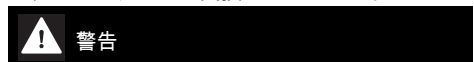
22.1 パワーツールを地面に置く



- ▶ エンジンを停止します。
- ▶ カutting アタッチメント装着部が上向きになるように、パワーツールを置きます。

22.2 ナイロンラインの交換

必ず草刈ヘッドが摩耗していないか点検してからナイロンラインを交換してください。



警告

摩耗がひどい場合、草刈ヘッド一式を交換してください。

以降では、ナイロンカuttingラインを「ナイロンライン」または「ライン」と呼びます。

草刈ヘッドには、ナイロンラインの交換に関するイラスト付きの説明書が同梱されています。草刈ヘッドの取扱説明書は安全な場所に保管してください。

- ▶ 必要に応じて、草刈ヘッドを取り外します。

22.3 ナイロンラインの送り出し調整

STIHL スーパーカット

ラインが最低 6 cm (2 1/2 インチ) 残っている場合は、新しいラインが、自動的に送り出されます。長すぎるラインは、デフレクターのブレードで適切な長さに切り揃えられます。

STIHL オートカット

- ▶ エンジンを作動させ、草刈ヘッドを回転させたまま草地の上方で保持します。
- ▶ 地面上で軽く叩きます - 新しいラインが送り出され、デフレクターのブレードで適切な長さに切り揃えられます。

草刈ヘッドで地面を軽く叩くたびに新しいラインが送り出されます。そのため、作業中は草刈ヘッドの切断性能を観察してください。草刈ヘッドで地面を頻繁に叩き過ぎると、ナイロンラインの未使用部分がライン制限ブレードによって不必要に切り落とされます。

両方のラインが最低 2.5 cm (1 in) 残っていれば、ラインは送り出されます。

STIHL トリムカット



警告

ケガをする危険を減らすために、必ずエンジンを停止してから手でナイロンラインを調整してください。

- ▶ スプールを引き上げ - かみ合うまで反時計回りに約 1/6 回転させ - 跳ね戻します。
- ▶ ラインの端を外側に引き出します。

両方のラインがデフレクターのライン制限ブレードに達するまで、上記の手順を必要に応じて繰り返します。

スプールが停止位置から次の停止位置まで回転すると、新しいラインが約 4 cm (1 1/2 in) 繰り出されます。

22.4 ナイロンラインの交換

STIHL ポリカット

カutting ブレードの代わりに、事前に所定の長さに切断したナイロンラインをポリカットに取り付けることができます。

STIHL デュロカット、STIHL ポリカット



警告

ケガをする危険を減らすために、必ずエンジンを停止させてから草刈ヘッドの詰め替えを行ってください。

- ▶ 同梱されている取扱説明書の説明に従い、事前に切断したナイロンラインを草刈ヘッドに取り付けます。

22.5 カutting ブレードの交換

22.5.1 STIHL ポリカット

新しいカutting ブレードを取り付ける前に、必ずカutting ヘッドが磨耗していないか点検してください。

**警告**

磨耗がひどい場合、カutting ヘッド一式を交換してください。

以降の部分では、プラスチック カutting ブレードを「ブレード」と呼びます。

カutting ヘッドは、ブレードの交換に関するイラスト付きの説明書が同梱されて納入されます。カutting ヘッドに関する取扱説明書を、安全な場所に保管してください。

**警告**

ケガの危険を低減するため、ブレードを取り付ける前に必ずエンジンを停止してください。

- ▶ カutting ヘッドを取り外します。

24 整備表

以下の整備間隔は、標準的な作業条件用です。毎日の作業時間が長い、作業条件が過酷な場合(粉塵が極端に多い場所など)は、指定された間隔をそれに応じて狭めてください。		毎 日 作 業 後	毎 週 作 業 後	毎 月	毎 月	毎 12 カ 月	毎 年	毎 年	必要に応じて
機械本体	目視検査(状態、漏れ)	X	X						
	清掃		X						
コントロールハンドル	作動点検	X	X						
エアフィルター	清掃						X		X
	交換							X	
手動燃料ポンプ(装着されている場合)	点検	X						X	
	修理はサービス店に依頼してください ¹⁾							X	
燃料タンク内のピックアップボディ	点検					X			
	交換はサービス店に依頼してください ¹⁾				X		X	X	
燃料タンク	清掃					X		X	
キャブレター	アイドルリング調整の点検 - カutting アタッチメントが回転しないこと	X	X						
	アイドルリング回転数の再調整								X

- ▶ イラスト付き説明書に図示されているようにブレードを交換します。
- ▶ カutting ヘッドを再び取り付けます。

23 スチール販売店による点検と保守

23.1 タンク内のピックアップ ボディ

- ▶ 保管、運搬、品質要因は混合燃料に影響を与えます。このため、ピックアップ ボディの保守性を定期的に確認し、必要に応じて新しいピックアップ ボディを取り付けてください。

当社では整備や修理を、認定を受けた STIHL サービス店のみに依頼されることをお勧めします。

以下の整備間隔は、標準的な作業条件用です。毎日の作業時間が長い、作業条件が過酷な場合(粉塵が極端に多い場所など)は、指定された間隔をそれに応じて狭めてください。		推奨 整備 間隔	日 毎 の 作 業 後 の 点 検	世 帯 用 機 器	園 地 用 機 器	毎 日 の 作 業 後	12 カ 月 毎 の 点 検	世 帯 用 機 器	世 帯 用 機 器	こ の 手 冊 に お き て の 必 要 な 点 検
スパークプラグ	電極ギャップの再調整							X		
	100 運転時間毎に交換									
冷却風吸入部	目視検査		X							
	清掃									X
すべての手の届くスクリ ューとナット(調整スク リューを除く)	締め直し									X
カッティングアタッチメ ント	目視検査	X		X						
	交換								X	
	締め付け状態の点検	X		X						
金属製カッティングアタ ッチメント	目立て	X								X
安全ラベル	交換								X	
1)STIHL 社では、STIHL サービス店の利用をお勧めしています。										

25 磨耗の低減と損傷の回避

本取扱説明書の記述を遵守して使用すると、機械の過度の磨耗や損傷が回避されます。

本機の使用、整備並びに保管は、本取扱説明書の記述に従って入念に行ってください。

特に以下の場合のように、安全に関する注意事項、取扱説明書の記述内容及び警告事項に従わずに使用したこと起因する全ての損傷については、ユーザーが責任を負います：

- － スチールが許可していない製品の改造。
- － 当製品への適用が承認されていない、適していない、または低品質のツールやアクセサリを使用。
- － 指定外の目的に当製品を使用。
- － スポーツ或いは競技等の催し物に当製品を使用。
- － 損傷部品を装備したままで当製品を使用したことから生じる派生的損傷。

25.1 整備作業

「整備表」に列記されている作業は、必ず全て定期的に行ってください。整備作業を使用者が自ら行えない場合は、サービス店に依頼してください。

当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店のみに依頼されることをお勧めします。スチール サービス店には定期的にトレーニング

を受ける機会が与えられ、必要な技術情報の提供を受けています。

上記整備作業を怠ったことが原因で生じた以下のような損傷に対しては、上記の例として、以下の部品が挙げられます：

- － 指定された時期に実施されなかった整備や不十分な整備(例：エアフィルター、燃料フィルター)、不適切なキャブレターの調整または不十分な冷却空気経路の掃除(エア吸入スリット、シリンダーフィン)が原因で生じたエンジンの損傷。
- － 不適切な保管に起因する腐食およびその他の派生的損傷。
- － 低品質の交換部品を使用したことによる本機の損傷。

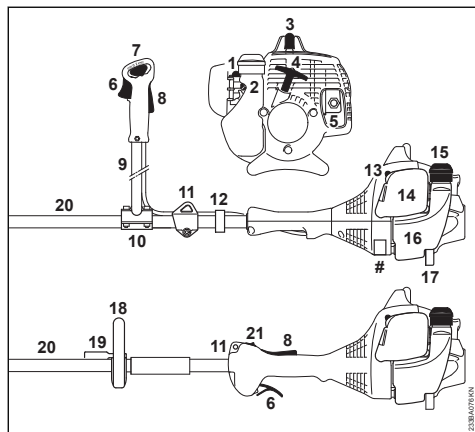
25.2 磨耗部品

パワーツールの部品によっては、規定どおりに使用しても通常の磨耗は避けられません。これらの部品は、使用の種類や期間に合わせて適時に交換してください。上記の例として、以下の部品が挙げられます：

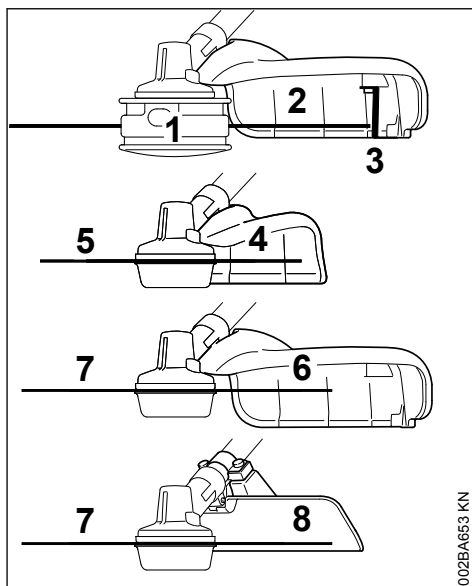
- － カッティングアタッチメント(全種)
- － カッティングアタッチメント固定用パーツ(ライダープレート、ナット等)
- － カッティングアタッチメント用デフレクター
- － クラッチ
- － フィルター(エアフィルター、燃料フィルター)

- リワインドスターター
- スパークプラグ

26 主要構成部品



- 1 手動燃料ポンプ
- 2 キャブレター調整スクリュー
- 3 スパークプラグ ターミナル
- 4 スターター グリップ
- 5 マフラー
- 6 スロットルトリガー
- 7 スライドコントロール
- 8 スロットルトリガー ロックアウト
- 9 バイクハンドル (ハンドルバー)
- 10 ハンドル サポート
- 11 吊り下げ用リング
- 12 スロットル ケーブル リティナー
- 13 チョーク レバー
- 14 エアー フィルター カバー
- 15 タンク キャップ
- 16 燃料タンク
- 17 マシン サポート
- 18 ループハンドル
- 19 バリアバー
- 20 ドライブチューブ
- 21 ストップスイッチ
- # 機械番号



- 1 カutting ヘッド
- 2 カuttingヘッド専用デフレクター
- 3 ブレード
- 4 草刈りブレード (最大直径 230 mm) 専用デフレクター
- 5 230 mm 草刈りブレード
- 6 草刈りブレード (最大直径 255 mm) 専用デフレクター
- 7 255 mm 草刈りブレード
- 8 草刈りブレード (最大直径 255 mm) 専用デフレクター

27 技術仕様

27.1 エンジン

単気筒 2 ストロークエンジン

排気量:	27.2 cm ³
シリンダー径:	34 mm
ピストンストローク:	30 mm
ISO 8893 に準拠した出力:	0.75 kW (1 PS)
力:	7000 rpm 時
アイドリング回転数:	2800 rpm
回転数制御範囲 (公称値):	9500 rpm
出力シャフトの最高回転数	7700 rpm
(カutting ツールの取付部):	

27.2 イグニッションシステム

エレクトロニクマグネトイグニッション

スパークプラグ (雑音防
止) : Bosch WSR 6 F、
NGK BPMR 7 A、
STIHL ZK C 14
電極ギャップ: 0.5 mm

27.3 燃料システム

燃料ポンプ搭載全方向ダイヤフラム式キャブレター

燃料タンク容量: 330 cm³ (0.33 l)

27.4 重量

燃料なし、カッティングツールおよびデフレクターなしの状態

FS 55 : 5.0 kg
FS 55 C: ErgoStart 付き : 5.2 kg
FS 55 R : 4.8 kg
FS 55 RC: ErgoStart 付き : 5.0 kg

27.5 音圧・音響・振動レベル

音圧、音響、振動レベルの数値は、アイドリング回転数と公称最大回転数を均一に考慮して計算されています。

振動に関する指令 2002/44/EC の順守の詳細については、以下をご覧ください -

www.stihl.com/vib

27.5.1 ISO 22868 に準拠した音圧レベル L_{peq}

草刈ヘッド付き
FS 55 (バイクハンドル付き) : 95 dB(A)
FS 55 R : 95 dB(A)
金属製カッティングツール付き
FS 55 (バイクハンドル付き) : 94 dB(A)
FS 55 R (バリアバー付き) : 94 dB(A)

27.5.2 EN 22868 に準拠した音響出力レベル L_w

草刈ヘッド付き
FS 55 (バイクハンドル付き) : 108 dB(A)
FS 55 R : 108 dB(A)
金属製カッティングツール付き
FS 55 (バイクハンドル付き) : 107 dB(A)
FS 55 R (バリアバー付き) : 107 dB(A)

27.5.3 ISO 22867 に準拠した振動レベル $a_{hv,eq}$

草刈ヘッド付き	左ハンドル	右ハンドル
FS 55 (バイクハンドル付き) :	5.5 m/s ²	5.5 m/s ²
FS 55 R :	8.5 m/s ²	8.5 m/s ²

金属製カッティングツール付き	左ハンドル	右ハンドル
FS 55 (バイクハンドル付き) :	6.8 m/s ²	5.6 m/s ²
FS 55 R (バリアバー付き) :	8.0 m/s ²	9.0 m/s ²

27.6 排気ガス

EU 型式認定手順で測定された CO₂ 値は、以下に記載されています -

www.stihl.com/co2

(製品ごとの技術データ)。

CO₂ 測定値は、代表的なエンジンを実験室の環境下で標準的な試験手順に従って測定した結果であり、特定のエンジンの性能を明示的、暗示的に保証する数値ではありません。

適用される排気ガス規制の要件は、本書に記載されている方法で機械を使用し、整備することによって満たされます。いかなる方法であれエンジンを改造すると、使用許可は無効になります。

28 整備と修理

本機を使用する方が実施できる保守および整備作業は、本取扱説明書に記述されていることです。それ以外の修理はすべてサービス店に依頼してください。

当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店のみに依頼されることをお勧めします。スチール サービス店には定期的にトレーニングを受ける機会が与えられ、必要な技術情報の提供を受けています。

修理時には、当社が本機への使用を承認した、または技術的に同等な交換部品だけをご使用ください。高品質の交換部品のみを使用して、事故および本機の損傷を回避してください。

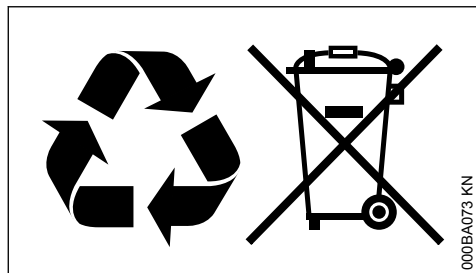
当社ではスチール オリジナルの交換部品のご使用をお勧めします。

スチール純正部品には、スチール部品番号、**STIHL** ロゴマークおよびスチール部品シンボル マーク **G** が刻印されています。(小さな部品では、シンボルマークだけが刻印されているものもあります。)

29 廃棄

廃棄に関する情報については、最寄りの行政機関または STIHL サービス店へお問い合わせください。

不適切な廃棄は、健康被害や環境汚染の原因になるおそれがあります。

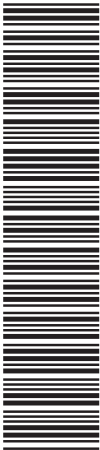


- ▶ 現地の規制に従い、パッケージを含む STIHL 製品を適切な回収場所へ持ち込み、リサイクルしてください。
- ▶ 家庭ごみと共に廃棄しないでください。

www.stihl.com



0458-826-4321-B



0458-826-4321-B